

令和4年度 卒業論文

洋画字幕における非外来語のカタカナ表記について

広島大学文学部人文学科  
日本・中国文学語学コース  
日本文学語学専攻  
B190002 三田夏未

## 目次

- 1 はじめに
- 2 先行研究
  - 2.1 現代日本語の表記体系
  - 2.2 あらゆる媒体における現代日本語の非外来語カタカナ表記
  - 2.3 洋画字幕における日本語
- 3 調査方法
  - 3.1 非外来語の定義
  - 3.2 調査対象
  - 3.3 集計方法
- 4 考察
  - 4.1 洋画字幕におけるカタカナ表記の実態
  - 4.2 カタカナ表記されやすい語の特徴
  - 4.3 コンテキストによる表記の使い分け
    - 4.3.1 作品の時代設定とジャンル
    - 4.3.2 登場人物による表記の使い分け
    - 4.3.3 同作品内での表記の使い分け
    - 4.3.4 作品外での表記の使い分け
- 5 まとめ

## 1 はじめに

現代日本語においてカタカナ表記が一般的に見られる例として、外来語、擬態語・擬音語などのオノマトペ、動植物名などが挙げられる。しかしそのような一般的な通例とは違い、ある条件や意図のもとにあえてカタカナが選択される場合がしばしば存在する。近年では流行語や省略語を表記する際にカタカナが用いられる例も多く見られており、カタカナの使用例は多様化している。筆者が洋画を鑑賞した際、「デカイ」や「ビョーキ」「ムダ」など、日常的に触れる新聞や報道などの媒体では漢字またはひらがなで表記されることが圧倒的に多いと思われる語が、字幕ではカタカナ表記で登場するということがみられた。そのような特徴的なカタカナ表記の実態や効果を探ることで、現代日本語におけるカタカナの役割がさらに明らかにできると考え、本論文ではそのような映画字幕における非外来語のカタカナ表記に着目する。

先行研究では、非外来語のカタカナ表記について論じているものは数多くあったが、媒体としては新聞、日本語教科書、小説、若者雑誌、広告などを扱っており洋画字幕を研究対象として扱うものは見当たらなかった。そこで本稿では洋画字幕に見られる非外来語のカタカナ表記の実態を調査し、洋画字幕におけるカタカナ表記の特徴・カタカナ表記の効果について考察していきたい。

## 2 先行研究

### 2.1 現代日本語の表記体系について

日本語の表記体系について成田・榊原(2004)によると、「日本語表記について現在法制化されて目安となっているのは、『常用漢字表』(1981年内閣告示第1号)『現代仮名遣い』(1986年内閣告示第1号)『ローマ字のつづり方』(1954年内閣告示第1号)『送り仮名の付け方』(1973年内閣告示第2号)『外来語の表記』(1991年内閣告示第2号)など」であり、ここから、「日本語の表記原則」として漢語は「漢字」で、和語は「漢字」または「ひらがな」または「両者の交ぜ書き」で、外来語は「カタカナ」で表記するという規則を提示した。加えて、上記のような規則に外れる場合として、日本語の表記戦略という仮説を提示した。

- 1、明らかに外来語である語は、カタカナで書け。
- 2、固有名は、決まった表記があればそれに従え。
- 3、漢字で書ける語は、漢字で書け。
- 4、動物、植物、オノマトペ・畳語は、カタカナで書いてもよい。
- 5、漢字で書けるはずの語で、漢字がわからない、あるいは読みにくいと思われるときは、カタカナで書け(活用語尾はひらがなでよい)。
- 6、音を明示したい、意味をきわだたせたい、などの表現意図があるときは、カタカナで書け。
- 7、上記のいずれにも当てはまらない場合は、ひらがなで書け。

以上のように、規則として外来語にはカタカナを用いると規定されており、その他の表記戦略として動植物やオノマトペ、音や意味を際立たせたい時にもカタカナを用いることができる、としている。上記の7項目のうち、映画字幕において他の媒体と相違点が期待できるのは、6の「音を明示したい、意味を際立たせたい、などの表現意図があるときは、カタカナで書け」である。制限がある映画字幕において音の明示や意味の強調などの表現の工夫は非常に重要であると考えられる。字幕の制限については2.3で説明する。

### 2.2 あらゆる媒体における現代日本語のカタカナ表記について

語種選択の規範について前述してきたが、それらを踏まえて、新聞や雑誌など媒体ごとのカタカナ表記について調査した研究が数多く存在し、カタカナ表記の実態や効果が示されてきた。

五十嵐(2012)は『日本の社会とカタカナ表記』で、新聞・雑誌・テレビコマーシャルの語彙調査を行い、カタカナ語を(1)外来語、(2)漢語、(3)和語、(4)擬音語/擬態語、(5)混種語、(6)固有名詞の六つの種類に細分し考察している。結果から、テレビコマーシャルで漢語と和語(非外来語)がカタカナ表記される割合が最も多く、新聞では最も少ない割合となっており、

媒体によって単語の表記の仕方が違うことを明らかにした。

村中(1976)は昭和 41 年の新聞三紙(朝日・毎日・読売)を対象として、その六十分の一をサンプリングした語彙調査からカタカナ表記の特徴について報告している。カタカナ表記される語の特徴として、

- A 片仮名で書く習慣のあるもの
- B 漢字制限のため漢字で書けず、片仮名で書くもの
- C B が習慣化して、範囲が広がったもの
- D 平仮名と違った、あるニュアンスを持たせるもの

としている。また、村中、黎(2013)は先行研究(上記の土屋(1977)、佐竹(1980)、野村(1981)、玉村(1985)、河原崎(1989)など)を整理し、カタカナ表記が行われる理由として

- ①文章の話し言葉的な特徴をいかす
- ②単語に特殊な意味や語感をもたせる
- ③文字連続のなかで語句のきれめを表示する役割をはたす

の3点にまとめた。そこから、カタカナそのものが本来的に持つ性質と、カタカナの現代日本の言語生活での位置付けをもとに、考察を行っている。

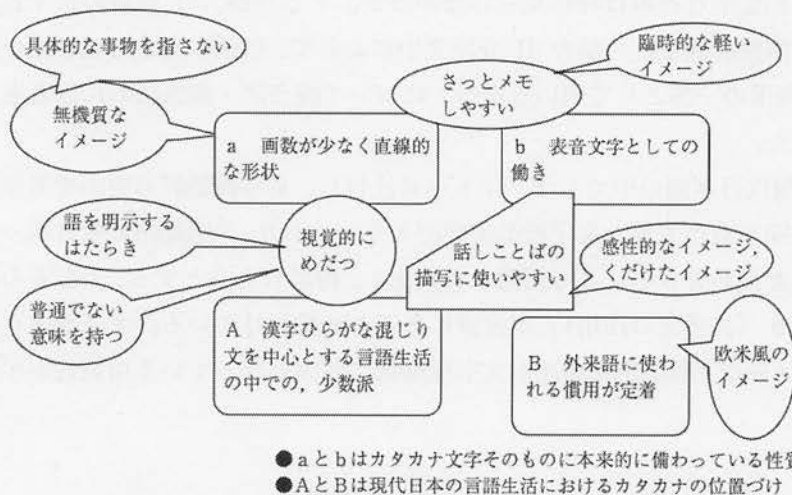


図1 カタカナの性質とその機能、村中淑子・黎婉珊「中上級日本語教科書における非外来語のカタカナ表記の実態」(2013)より引用

その上で中上級日本語教科書におけるカタカナ表記を分析し、和語・漢語・混種語の中で最も和語をカタカナ表記したものが多く、文章の性質としては、「エッセイ的なやわらかいく

だけたイメージ」の文章に多く見られると述べている。日本語教科書特有の考察としては、書き下ろし教材よりも生教材（母語話者用に書かれたものをそのまま教材として使用するもの）の方が明らかに非外来語カタカナ表記の数が多く、「ニワトリ」「にわとり」など同じ語で両方の表記を記述することで教師が指導するきっかけを作っているのではないかと指摘している。

さらに喜古(2007)は戦後の小説 25 作品を対象とし、

- A ことばの意味に {ずれ・限定・強調} があることが明示される
- B ことばにある種のイメージが付加される
- C ことばの音声が際立つ

の3点を挙げ、これらの効果が共起する場合もあるとしている。特にBについては、「視覚的スタイルに由来するイメージ」と「用いられ方に由来するイメージ」に大別している。前者は、平仮名に比べ直線的、画数の多い漢字に比べ簡潔という片仮名の外見から喚起されるイメージである。後者は、運用の歴史によって片仮名という文字体系に付着したイメージであり、(ア) 卑俗、略式といったイメージ、(イ) 西洋風、新しい、最先端といったイメージ、(ウ) 平易というイメージを指摘している。

吉田(2007)は、小説における擬音語・擬態語のカタカナ表記の実態を調査し、「基本的に擬音語は片仮名表記されたとした先行研究の記述と食い違いが見られ」、「片仮名表記された擬音語・擬態語に形態的な特徴は特に見られなかった」としたが、「I 機械の音や音声を表す場合および無感情性を表したい場合 II 会話文中において、俗語っぽさを表したい場合 III 定型化された表現の一部として用いる場合」において擬音語・擬態語の片仮名表記が用いられると指摘した。

増地(2019)では、現代日本語の中でもオノマトペに注目し、文字種選択の要因を考察している。オノマトペの描写音が主要な文字種選択要因となっており、「感覚的に受け取った音やイメージを文字種を使い分けることで正確に具象化し、再現しようとする、表記者の意識あるいは無意識の働き（共感覚の作用）」が背景にあると結論づけている。オノマトペでは、音を起点とするイメージ・形の相互関連が文字種選択の要因となっている可能性が示唆される、としている。

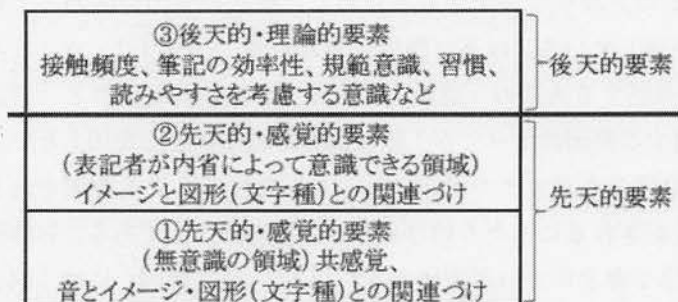


図2 オノマトペにおける文字種選択要因、増地ひとみ(2019a)「オノマトペを表現する文字種の選択要因：「キンキン」と「ふわふわ」をめぐって」より引用

また、増地(2018a)では、EメールやテレビCM、日用品のパッケージに着目し、「ディスコース・ポライトネス理論<sup>1</sup>」を用いて、カタカナ表記の実態とその背景を考察している。増地氏は「場面」「意識」「内容」「形式」は連動しており、現代日本語において非外来語にカタカナ表記が使用される時、その背景には「語用論的要素」とりわけ「場面」と「意識」が要因の一つとして働いているといる」と結論づけ、さらに、文字種が選択される背景にある要素として「この語はカタカナで書かれる」という直感的感覚を指摘し、「カタカナ表記存在感覚」という術語を提案している。さらに文字種が選択されるにあたってコンテキストの影響を受けない語を特定し、影響を受ける語と区別して捉えるという新しい考え方を提示するなどしている。しかし、課題としてBCCWJに含まれていない資料を広くカバーすることは成し得ておらず、今後の課題とされている。

他にも、看板における文字種使用の実態を調査した染谷(2002)や、電車の中吊り広告を調査した魏聖銓(1999)、テレビ番組やテレビCMを調査した増地(2013,2015)などで、非外来語のカタカナ表記についての研究を行っている。ここまで先行研究にて指摘されてきたカタカナという表記自体が持つイメージを語に付与したり、その語の持つ意味や音を強調させたりする効果が共通して見られる。ほとんどが話し言葉である映画字幕においては、特にその効果を発揮するものと考えられ、翻訳者もその効果を期待して意図的にカタカナ表記を用いることが予測できる。

さらに増地(2019)は、それまでの「非外来語のカタカナ表記」研究の現状を体系的に整理しており、これまでの調査方法の問題点やそれぞれの結論から得られる総合的な考察を

<sup>1</sup> ブラウン&レビンソンによって導入された「ポライトネス理論」を応用し、日本独自に発展したのが「ディスコース・ポライトネス理論」である。談話の諸要素に「基本状態」があることを想定し、「ポライトネス効果」はその「基本状態」を基にして相対的に生まれてくるものであると捉える。そのため、文字種の選択要因を考察する際に有益であるとされている。

述べている。その中で非外来語がカタカナで表記されるためには複数の要因が関わっていることを指摘し、要因を三つに整理している。以下に簡単にまとめる。一つ目は、コミュニケーションを行う「場」、そこで発話する人間の「意識」という「非言語的要因」と「言語的要因」である。ある表記が出現する要因はすべてが「非言語的要因+言語的要因」という二重構造を持つ。二つ目は非外来語がカタカナで表記されることを後押しする要素である「促進要因」と、逆にカタカナ表記されるにあたり妨げとなる「抑制要因」である。具体例としては、「促進要因」には「漢字で書きにくい事情にある」こと、「抑制要因」には「改まった場であること」などが挙げられる。どのような要因が促進/抑制のどちらとして作用するのか、どの程度の強さで作用するのかは、個々の用例ごとに異なる。三つ目は、語や表記に付随しており原則的に変化しない「固定的要因」と用例によって変化する「変動的要因」である。「固定的要因」には品詞などの語の属性、「変動的要因」には「文字列環境」などがある。以上の三つの切り口で捉えた異なる要因の掛け合わせという多重構造によって、非外来語がカタカナ表記されるという。また、現代日本語における書き言葉を調査・分析するにあたって調査対象となる文字資料は多岐にわたるが、媒体に未だ偏りがあることを指摘している。増地氏は「非外来語のカタカナ表記」研究を体系的に整理した上で、「現代日本語における非外来語のカタカナ表記の実態を把握し、表記の選択に関わる仕組みと原理を考察するには不十分である。」と述べ、「さらに実態を把握するために、多種多様な資料の中から何に焦点を当て、調査対象としていくのか慎重に検討した上で調査を進める必要がある」と指摘している。

以上より本研究では、いまだに調査媒体として取り上げておらず、一般的に身近である映画字幕を調査対象とする。映画字幕は、作品ごとに担当する字幕翻訳者によって作中全ての字幕を作成するため、作中で表記主体が変わることがなく、ゆれ(表記者による表記の差異)が生じにくい媒体であると考えられる。また、字幕の特性上、限られた短い時間で内容を理解させるという目的があるために、表記者の意図が見えやすい媒体であるため、表記の意図や特徴を考察するのに適した資料であるといえる。また、発話者による言葉・表記をそのまま受容者が鑑賞するのではなく、発話者が異言語(英語)で発話した台詞をもとに、翻訳者が言葉・表記を構築し直す媒体である。その過程では、発話者(脚本)の意図はなにか、受容者にとって理解しやすい文・表記・表現はどんなものかという翻訳者の解釈・意図が介入する。そのために、受容者に理解させたいという表記者の意図が表記に大きく影響を及ぼすのが映画字幕という媒体であり、カタカナ表記の意図を考察する媒体として妥当であると言える。

### 2.3 洋画字幕における日本語

戸田(1994)によると、世界の国々で外国映画を上映する場合には、ほとんどが吹き替えであり、字幕が主流をしめているのは日本だけであるようだ。その理由として、「外国映画はなんのすり替えもせず、オリジナルを観たいという日本人独特の本物指向」、「日本人は一人



残らず字が読めるという、世界のなかでも非常に特殊な条件があった」ことなどを挙げている。日本映画界での字幕は歴史が長く、その中で各種の制限が変化しながらも残っているようである。

梁瀬(2013)は、アニメーション作品、実写作品、作中に歌が複数回登場する作品、字幕と翻訳を同一者が担う作品など8作品を対象とし、音節数や意味内容を比較している。調査の結果、吹き替えの字数が1.5倍であると結論づけている。

また、字幕においては情報の減少が吹き替えに比べて多くなっており、吹替では情報の減少が少ないだけでなく、増加も字幕以上に生じているという結果を示している。

翻訳形態以外に見られた特徴としては

- 字幕では体言止めや言い差しが多い
- 字幕では読み上げると違和感を感じるような言葉でも許容される
- 吹き替えでは外来語で表現している単語を、字幕では日本語にしている例が多数見受けられた
- 吹き替えにおいて口論の場面では文字数が多くなる
- 吹き替えよりも字幕の方が短文であることが多い

としており、総じて字幕は字数の制限などにより書けることが限られているため、体言止めされたり、内容そのものの情報が減少されたりすることを指摘している。

また小林(2000)は、洋画の字幕における日本語の特徴として次のように整理している。

- 1) 字幕翻訳は、正確さよりも明瞭さを追求するものである。
- 2) 字幕翻訳では、字幕スペースの制約のために恒常的に簡略や省略が行われている。
- 3) 字幕スペースに余裕があっても簡略や省略は頻繁に行われ、中には省略が行き過ぎた訳例もある。
- 4) 簡略や省略のため場面の雰囲気や細かな感情の表現が損なわれてしまった訳例もある。
- 5) 説明台詞は、字幕では役割が活かされずに簡略または省略されている場合があるが、その根拠はスペースの制約だけではなく、混乱を避けるために積極的に省く場合もあるようだ。
- 6) 字幕は原文の情報を減じるだけではなく、むしろ明確にするために情報を付加することもあり、t、より明確にしようと試みたものと判断できるものだけではなく、原文の台詞自体に曖昧さや不正確さなどの不備があり、それを補足したと思われる訳例もある。いわば説明台詞のような役割を字幕が負うことがある。
- 7) スペースのとらない日本語の助詞は、時に英語の1文をも表すことも可能であり、字幕ではその利点が最大限に活用されている。

洋画字幕ならでは翻訳の特徴を字数の制限に主に注目して分析しており、直訳よりも日本人の文化に伝わる意識や省略などが多用されると指摘している。本稿の研究においては、そのような字数の制限や、単なる翻訳とは異なって表記に翻訳者の意図が反映される映画字幕という媒体において、カタカナ表記の実態を調査し、翻訳者の意図やその効果を明らかにしたい。

最後に、字幕を作成するにあたっての、字幕作成者の意図や背景を整理する。

「3 調査方法」にて後述するが、本稿の調査対象として字幕翻訳家の戸田奈津子氏を選定している。戸田氏の師匠である清水俊二氏の著書で、さらに戸田氏自身も編集に携わっている『映画字幕は翻訳ではない』にて、字幕翻訳の際の制限や工夫について言及している。以下傍線は筆者による。

字数が多くなりすぎたり、読みにくい字を使ったりすることは絶対に避けなければならない。

私たちスーパー字幕屋がいつも頭に置いているのは観客にわかる字幕をつくることで、原文を正確に翻訳することではない。したがって、“字幕スーパーの文法”は外国語を日本語翻訳するための“文法”ではなく、外国語の原文を観客にわからせるための“文法”でなければならない。

以上のように、清水氏は映画字幕を制作する際に、忠実な翻訳ではなく、字幕という字数の制限があるなかでいかに観客に理解させるかという点に留意している。これは、愛弟子である戸田氏にも伝授されていると考えられる。

また、戸田奈津子氏自身も著書『字幕の中に人生』の中で、字幕の制作方法や制作時の留意点に触れており、

平均的な日本人は映画館で意識を集中した状態でスクリーンを見ているとき、一秒三文字から四文字なら無理なく読み取れて、画面にも意識を配る余裕がある。(中略)これを超えて文字数を多くすると、「字幕が忙しい」「読みきれない」という不都合が生じてくる。

「作業にかかる前に、何度映画を観るのですか」「ビデオと首っぴきで翻訳するのですか」などとよく聞かれるのだが、実際は「最初」と「中間」と「最後」の三回。翻訳そのものはたった1回観ただけで、とりかからねばならない。神業のようだが、これは昔から変わらぬプロセスで、すべての翻訳者はそれに慣れてゆくのである。

字幕づくりは弟子にやらせて、師匠が手をいれるということのできない仕事なのだ。第一そんな悠長なことをしている時間的余裕がないし、複数の翻訳者の手が入ると、大切なせりふのリズムやせりふ回しが微妙に乱れて、よい仕上がりにならない。

さらに「字幕を読む」というが、人は実際には字幕を読んではいない。チラッと目で見て内容をつかみ、あとは画面のアクションや俳優の表情を観ている。当然である。  
(中略) 言い換えれば、字幕はチラッと目を走らせただけで、なんなく内容をつかめる文章でなければならない。

以上複数箇所引用したが、字幕作成は字数の制限や一目でわかる文章という字幕特有の留意点があり、映画そのものを観る回数は少なく、弟子に頼むこともできない仕事であるため、個人の表記の特徴が現れやすい媒体であることが考えられる。

そのほかにも戸田氏自身が注意している翻訳のポイントについて、「漢字は、少なくとも私は新聞なみに当用漢字を遵守して、だれもが読める字幕を心がける」こと、ひらがなで書くこと、読みやすく、他の語と混同する、などの場合は難しい漢字でもあえて漢字で表記してルビを振ること、映画の出だしのせりふは字幕を読むことに慣れていない観客のために、字数を抑え加減にすること、などさまざまな点を挙げている。

また、篠原(2018)は自身の字幕翻訳の経験をもとに、字幕の制作プロセスを記している。

表1 日本語字幕の制作プロセスとその参与者

字幕制作プロセス	参与者
① 作品の選定、字幕制作の発注、翻訳指示	クライアント[配給会社、TV局など]
② 受注、翻訳者へ発注、翻訳指示	字幕制作会社、翻訳会社
③ 素材受領、訳出前作業[スクリプト確認、ハコ書き、スポッティング]	翻訳者
④ 訳出、情報探索、見直し、翻訳送付	翻訳者
⑤ 仮ミックスの制作	制作会社
⑥ 修正	制作担当者(翻訳者)
⑦ クライアントによるチェック	クライアント、制作担当者、(翻訳者)
⑧ 字幕テキストの完成	

出典: 篠原有子(2018)『映画字幕の翻訳学—日本映画と英語字幕』晃洋書房 p89 より引用

上記の表中のプロセス②では、字幕翻訳者に対して、制作会社や翻訳会社から翻訳依頼がなされる。その際に、翻訳者に対して翻訳指示が出ることがあり、その指示は映画の内容や販売戦略によって異なる。シリーズ作品における訳語の指示、漢字の使い方など表記上の指示、などがあり、実際に篠原氏が受けた翻訳指示としては、

- ・ 1行横字幕：MAX13文字、縦字幕：11字
- ・ 下ルビ、下傍線はつけられません
- ・ 中黒「・」以外の記号は全角でお願いします
- ・ 本、映画、歌のタイトルなどはすべて“ ”
- ・ 差別用語、身体的な特徴（チビ、デブ、ハゲ等）、病気、職業等をバカにするような表現は避けてください
- ・ カップルを表す場合のふたりは「二人」（ロマンティックな意味合いを持つ場合）、それ以外は2人、歌詞に出てくるものは「ふたり」
- ・ 歌詞字幕は2行になる場合、2文字ずらしの“ちどり”にしてください

などがあったようである。このように表記に関するものだけでなく差別用語の忌避のように訳語の選択に影響する指示も含まれており、翻訳指示は翻訳の目的を翻訳者に明示的に伝えるだけでなく、様々な面で字幕の訳出に影響を及ぼしている。しかし、上記の例以外にも「わかりやすく」などの抽象的な翻訳指示がされることもあり、その場合何を持って「わかりやすい」とするかは明確でないため、字幕翻訳者が自分の判断基準で訳出している場合が多い。また、文芸翻訳や産業翻訳では書記言語から書記言語へ、吹き替えでは音声言語から音声言語へそれぞれ移行するのに対し、字幕翻訳では音声言語から書記言語へと対角的な移行が生じていることを字幕翻訳の特徴として挙げている。その特徴ゆえに、罵り語やタブー表現が音声のみで認識するよりも字幕で認識することで不快感が増すと考えられ、字幕に反映されにくいことを指摘している。

### 3 調査方法

#### 3.1 非外来語の定義

上記で述べたように、カタカナの主な役割として外来語の表記に用いることが挙げられる。しかし、増地ひとみ(2021)によると、現代では「カタカナ語への抵抗感の低下となじみが〈カタカナと外来語の非対応〉と〈外来語意識の希薄化〉を生じさせ」ているとし、外来語と非外来語の区別がうすれてきていると指摘している。

本稿においては松田梨江(2007)を参考に、

- (1)英語など1つの西洋外来語から借入された1語以上の語
- (2)英語などの2つ以上のことなった西洋外来語から借用された語が結合した混種語
- (3)英語などの1つ以上の西洋外来語から借用された語と日本語が結合した混種語

以上を外来語と定義し、漢語が借用されたものや漢語と日本語の混種語などは外来語に含まないこととする。また、動植物名、固有名詞、擬音語・擬声語・擬態語(以下オノマトペとする)も非外来語として扱う。

#### 3.2 調査対象

本研究は洋画における字幕を著者の目視によって書き出したものを調査対象とする。全ての字幕を表記通り Excel に記録することによって調査資料とした。

また、調査対象作品としては字幕翻訳者によってカタカナ表記の特徴にも変化が見られる可能性があるため、今回は戸田奈津子によって字幕翻訳が行われた作品を扱い調査を行う。(戸田奈津子が翻訳した作品であることは MOVIE WALKER PLESS

(<https://moviewalker.jp/person/288/>)を参照) 戸田奈津子は映画字幕翻訳家であり、1970年『野生の少年』にて初の映画字幕を手掛けてから多くの作品の映画字幕を担ってきた人物である。2022年7月に86歳で引退を表明するまでに手掛けた映画字幕は1500本以上にもなる。「映画ファンならば、この人を知らない人はいまい。日本の洋画字幕の第一人者である。」<sup>2</sup>とも言われている。また、洋画興行収入ランキング<sup>3</sup>1位の「アバター」3位の「タイタニック」、 「スターウォーズ」シリーズや「ジュラシックパーク」シリーズ、「ハリーポッター」シリーズなど、認知度・評価ともに高い洋画の字幕を多く務めている。「きみ

---

<sup>2</sup>・毎日新聞特集ワイド

(<https://mainichi.jp/articles/20220902/dde/012/200/011000c>)

(最終閲覧日 2022/10/15)

<sup>3</sup> 世界歴代映画興行収入 (<https://www.tsp21.com/movie/worldmoviealltime.html>)

(最終閲覧日 2022/10/24)

に読む物語」(2004)の字幕翻訳を行なった字幕翻訳家・伊原奈津子氏もインタビュー<sup>4</sup>にて、字幕翻訳家を目指す人が多い理由として「吹き替え翻訳に比べると、字幕専門の戸田奈津子さんの影響が大きかったんだと思います。」と発言しているように、映画字幕翻訳界に与える影響は大きいと考えられるため、今回調査対象として設定する。また、近年の作品(2000年～2022年)の作品とする。

映画のジャンルによって、登場する台詞の差異や登場人物の言い回しの変化が見られる可能性があるためさまざまなジャンルの作品を扱いたいと考える。

ここで問題になるのが抽出する語の設定範囲である。先行研究では増地(2019)は「外来語に加えて動植物やオノマトペなどを「カタカナ表記される語」として認めるか否か、認めるならばどの範囲までかという点で先行研究による差異が存在」とし、「過去の成果を活用しにくい状況のまま今日に至っている。」と指摘している。そこで今回は、3.1で定義した外来語以外のすべてのカタカナ表記を抽出する。

#### △調査対象作品(年は日本で公開された年)

- ・13デイズ(2000) 【歴史・政治】
- ・キューティ・ブロンド(2001) 【恋愛コメディ】
- ・ワイルド・スピード(2001) 【アクション】
- ・ハリーポッターと賢者の石(2001) 【ファンタジー】
- ・レッド・ドラゴン(2002) 【サスペンス・ミステリー】
- ・ラスト・サムライ(2003) 【歴史・アクション】
- ・プライドと偏見(2005) 【ラブストーリー】
- ・ダ・ヴィンチ・コード(2006) 【サスペンス・ミステリー】
- ・エリザベス：ゴールデンエイジ(2007) 【歴史・ヒューマン】
- ・マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙(2012) 【歴史・ヒューマン】
- ・バトルシップ(2012) 【アクション】
- ・ミッション：インポッシブル ローグ・ネイション(2015) 【アクション】
- ・ザ・マミー 呪われた砂漠の王女(2017) 【アクション】
- ・ジュラシック・ワールド 炎の王国(2018) 【SF・アクション】

#### 3.3 集計方法

本論文では、カタカナ表記の実態やその表記を選択した意図・効果を明らかにすることを目的としているため、カタカナ表記された語やその例数、表記者や文脈に着目しデータの収集や分析を行った。Excelには、字幕内容、発話者を記録した。表2における「台詞数合計」

---

<sup>4</sup> 字幕翻訳家・伊原奈津子さんインタビュー (<https://medium.com/fraze-craze/字幕翻訳家-伊原奈津子さんインタビュー-eea54feb773d>)

を集計する際には、一度に表示される字幕を「1」とし、同一人物が連続して発話している内容でも、以下の図のように字幕が切り替わっていれば「2」として数えた。

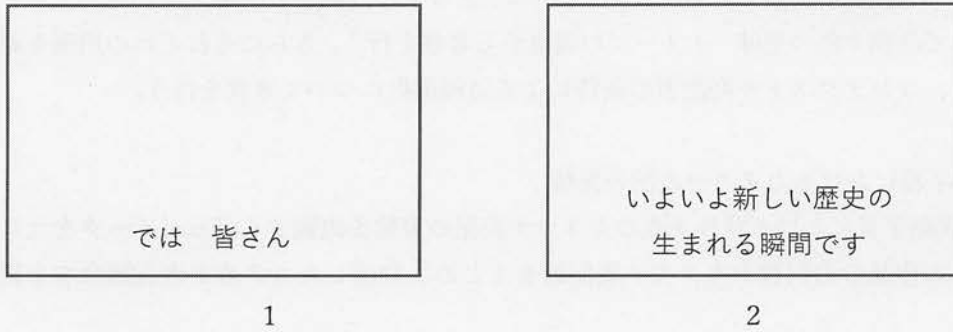


図3 台詞数の数え方

また、特記のない限り非外来語のカタカナ表記の例数は延べ語数で集計し、同一台詞内で同一単語が登場した場合でも2例として扱った。図2のような例では「ガミガミ」が2例登場した扱いになる。

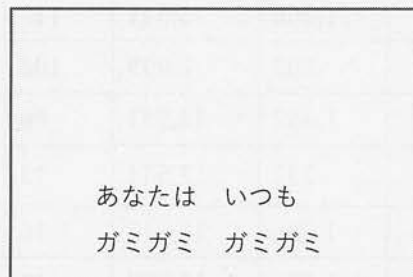


図4 非外来語カタカナ表記の数え方

#### 4 考察

本論文での調査・考察の切り口として、まず調査結果全体を概観し洋画字幕における非外来語カタカナ表記の実態をとらえたい。ついで、どのような語がカタカナ表記されやすいのかについて品詞や語の意味・イメージの観点から考察を行う。さらにそれぞれの用例を確認しながら、コンテキストや発話者の条件による語種選択について考察を行う。

##### 4.1 洋画字幕におけるカタカナ表記の実態

まず、洋画字幕における非外来語のカタカナ表記の実態を概観する。Excelデータを元に、それぞれの作品の台詞数やカタカナ表記数をまとめ、登場したカタカナ表記語全てを提示する。

表2 カタカナ延べ語数・異なり語数

作品名	台詞数 合計	文字数 合計	延べ 語数	異なり 語数	カタカナ 率(%) <sup>5</sup>
13 デイズ	1,637	19,595	47	32	2.87
キューティブロンド	1,199	12,167	108	67	<u>9.01</u>
ハリーポッター	1,396	15,541	117	66	<u>8.38</u>
ワイルド・スピード	893	7,999	108	63	<u>12.09</u>
レッド・ドラゴン	1,357	14,931	80	48	5.90
ラスト・サムライ	733	7,544	13	11	<u>1.77</u>
プライドと偏見	1,286	13,317	16	5	<u>1.24</u>
ダ・ヴィンチ・コード	1,586	17,978	40	22	2.52
エリザベス・ ゴールデンエイジ	1,032	10,308	10	7	<u>0.97</u>
マーガレット・ サッチャー	1,193	14,479	47	27	3.94
バトルシップ	1,217	11,143	94	54	7.72
ミッション： インポッシブル	1,181	11,623	56	32	4.74
ザ・マミー	911	7,997	28	19	3.07
ジュラシックワールド	990	9,228	43	33	4.34

表2に示した調査結果から、平均として台詞数合計は1186.5、文字数の合計は12417.9、カ

<sup>5</sup> カタカナ率=カタカナ延べ語数÷台詞数合計×100 (小数点第2位以下四捨五入)



タカナ延べ語数が 58、カタカナ異なり語数が 35、カタカナ率が 4.92%という結果になった。明らかに作品ごとに非外来語カタカナ表記の出現にばらつきが見られ、多いものは延べ語数 100 例を超え、少ないものは十数例にとどまっている。延べ語数が 100 を超える作品は 3 つあり、上位から「ハリーポッターと賢者の石」(8.45%)、「ワイルド・スピード」(12.09%)、「キューティブロンド」(9.01%)であった( () 内はカタカナ率)。対して、カタカナ延べ語数が最も少ない上位 3 作品は「プライドと偏見」(1.24%)、「ラスト・サムライ」(1.77%)、「エリザベス・ゴールデンエイジ」(0.97%)であった。これらの非外来語のカタカナ表記が少ない作品には、作品の時代設定が他作品に比べて古いという共通点が見られた。これについては以下で詳しく考察したい。また、アクションやコメディ、ファンタジーなどのジャンルに比べて、歴史・政治などのジャンルの非外来語カタカナ表記が少ない傾向が見られた。

●登場全単語

名詞

アカ	アリ	アホ	アホタレ
アマ	イザコザ	イジメ	イス
イマイチ	インチキ	ウサギ	ウスノロ
ウソ	エサ	エセ	エンピツ
オオカミ	大ボカ	オカマ	おシャレ
オス	オタク	オバサン	オマケ
オリガミ	カエル	カギ	ガキ
カモ	ガリ勉	カレシ	ガン
カンヅメ	キリ	ギリギリ	クスリ
クソ	クソヤロー	クソ野郎	クビ
クモ	ケガ	ケータイ	ケシ粒
ゲス男	ケダモノ	ケツ	ゲラ
ゲロ	コ(娘)	コ(個)	コツ
コト	コネ	コハク	ゴリ押し
コマ	ゴロツキ	サギ師	ザコ
サツ	サムライ	サメ	シッポ
シャカリキ	ジャマ	シュミ	ジョーシキ
シラ	シラミ	尻モチ	シロ
心臓マヒ	スケコマシ	スゴ腕	スズ
スズメ	ズブ濡れ	スモモ	ダチ
タバコ	タマ	ダメ	ダメ押し

たんじょうびィ	チクショー	チビ	チャラ
チンチン	チンピラ	ツケ	ツバ
ツメ	ツラ	デカ	デタラメ
デブ	トカゲ	トコトン	ドジ
ドタキャン	トリカブト	トンズラ	ナベ
ナマエ	ニガヨモギ	ネズミ	ネタ
脳ミソ	ノド	ノリ	バア
バア様	バカ	バカヤロー	ハゲ
ハサミ	ハシゴ	バツグン	ハッターリ
ハッパ	ハデ	鼻クソ	ハメ
バラ	腹ペコ	ヒキガエル	ヒゲ
ヒナ菊	ヒモ	ビョーキ	フクロウ
ブス	ブタ箱	フツ-	ブツ
ブッチぎり	フリ	ベソ	へタ
へタクソ	へン	ホウキ	ホウレンソウ
ボケ	ボケナス	ホシ	骨ヌキ
ボロ	ポンコツ	マシ	マジ
マジメ	マヌケ	マネ	満パイ
耳クソ	ムショ	ムダ	ムリ
メシ	メス	メチャメチャ	モテモテ
モン	ヤギ	ヤク	ヤブ医者
ヤマ	ヤロー	ヨワ虫	ラク
リンゴ	ロバ	ローソク	ワナ
ワル			

動詞

アセる	イカれる	ガッツく	キれる
クドク	サビつく	シャれる	ズラかる
チク	チョン切る	ツケる	ドじる
ドヤす	トンがる	バカげる	ハマる
ハメる	バレる	ビクつく	ビビる
ヒラめく	ブチ込む	ブチまける	ブツ殺す
ブツとぶ	ふる	ブン殴る	ムカつく
モてる	やる		

形容詞

ウザい	カッコいい	キツイ	キビしい
コワイ	スゴい	ズーズーしい	ズルい
ダサい	チョロい	ツヨい	デカイ
トロい	ナシ	ノロい	マズい
ヤバい	ヨワい		

形容動詞

イヤ	ステキ	ミエミエ	
----	-----	------	--

副詞

アタフタ	ウズウズ	ウヨウヨ	ウロウロ
ガサガサ	カッカ	ガツン	ガミガミ
グズグズ	ゴツン	サッパリ	シャキッと
ズキズキ	スツと	ズドン	ズバリ
スヤスヤ	チャラチャラ	チンタラ	ドカン
ドサッ	ノロノロ	ハッキリ	バッチリ
ビクとも	ビシッと	ピタリ	ヒョイ
ブツブツ	ベタベタ	ペロリ	ホッと
ボンヤリ	ワクワク		

代名詞

アソコ	アレ	ソレ
-----	----	----

感動詞

サヨナラ	シッ
------	----

品詞記載なし

イチかバチか、カッコつける、クソ食らえ、コンニチワ、ツイてる

辞書記載なし

オエーツ、カッコ悪い、クチュクチュ、ゴマスリ、シューツ、ス～、すげエ、ゼロヨン、チ  
ョー、デカ尻、ナガタ（固有名詞）、パツ、ビューン、ブチ切れる、ポーッと、ヤだ、ヤな  
予感、ワンちゃん

#### 4.2 カタカナ表記されやすい語の特徴

ここでは、品詞や意味の観点からカタカナ表記されやすい語の特徴を考察する。

表3 非外来語カタカナ表記の品詞分類

品詞	名詞	動詞	形容詞	形容動詞	副詞	代名詞	感動詞	語素	品詞記載なし	辞書記載なし
語数	180	30	19	3	34	3	2	1	5	18

表3では登場した非外来語カタカナ表記について品詞分類を行った結果を示している。ここでの数値は登場した延べ語数ではなく、異なり語数を示している。今回の対象作品内の非外来語で最もカタカナ表記されていたのは、名詞が圧倒的に多く、次いで副詞、動詞、形容詞という結果となった。

#### ・頻出カタカナ表記語

次に頻出単語について考察する。全作品のうち半数以上（5作品以上）に登場し、かつ述べ10例以上登場した非外来語カタカナ表記を抽出した。例数は述べ語数を示す。また、下線のある語は漢字またはひらがな表記でも出現している。

表4 非外来語カタカナ表記頻出単語

語彙	登場作品数	例数（延べ）
<u>イヤ</u>	10 作品	30 例
<u>ウソ</u>	7 作品	21 例
クソ	7 作品	17 例
ダメ	10 作品	25 例
バカ	14 作品	57 例
バレル	7 作品	11 例
ヘン	7 作品	20 例
<u>マズい</u>	7 作品	11 例
マネ	7 作品	10 例
<u>ムダ</u>	9 作品	14 例
<u>ムリ</u>	9 作品	17 例
ヤバい	5 作品	22 例

以上の語は調査した 14 作品中 5 作品以上に登場し、かつ 10 例以上みられた非外来語カタカナ表記である。下線のない語「クソ」「ダメ」「バカ」「バレる」「ヘン」「マネ」「ヤバい」に関しては、戸田氏の無意識的あるいは意識的な規範によってカタカナ表記すると決まっている語と捉えることができる。「嫌」「嘘」「糞」「馬鹿」「変」「真似」「無駄」「無理」は漢字でも表記することができるが、どれも画数が多く、限られた範囲で小さな文字で表記する字幕に適しているとは言い難く、「嘘」「糞」に関しては常用漢字ではない。加えて、「バカ」「ムリ」「イヤ」「ダメ」「ムダ」「クソ」については相手や状況を卑下したり、ののしったり、否定したりする語でありマイナスのイメージを持つ共通点がある。<sup>6</sup>また、「ヤバい」「マズい」に関しては、その状況を悪くいう表現として使用されており、否定的・マイナスなイメージを持つといえる。このため、やわらかいイメージをもつひらがなではなく、卑俗のイメージを持つカタカナ表記を選択することで、語自体を文章内で強調し、マイナスのイメージや俗語っぽさを強調する効果があると考えられる。また、意味によって区別されている語も見られた。堀尾・則松(2006)では「ダメ」について考察している。「駄目」は常用漢字であり本来は囲碁の用語で「相手の陣地の境にあってどちらの地所にもならない目」の意を表す。「むだ・よくない・できない」などの意は派生義であり、漢和辞典にも一般に後者の意味であらわすときは仮名書きの方がよいとの記述からも、本来の語義との差別化を図るためにカタカナ表記されていると指摘している。どのように「マズい」にも表記による意味の差別化が見られたため 4.3.3 で詳しく考察する。対して特にカタカナ表記の意図や目的が汲み取れない語もあった。「ウソ」については常用漢字でないにもかかわらず、8 作品に「嘘」という表記も見られ、語種選択に関わるその他の要因も見つけることができなかった。そのため、必ずしも画数等の表記上、意味上の要因によってカタカナ表記されているとは言えない。

#### ・カタカナ表記されない語

・「ばか」 ①知能が劣り愚かなこと。また、そのさまやその人。あほう。②取るに足りないつまらないこと。無益なこと。また、常軌を逸したことやそういうさまをいう。たわけ。③本来の働きを果たさない状態。当然持っているはずの機能がはたらかない状態。

・「むり」 ①道理に反すること。理由のたたないこと。また、そのさま。非道。②しいて行うこと。強引にことをなすこと。わざとそれらしくすること。また、そのさま。③行いがたいこと。また、そのさま。困難。

・「いや」 不快に思うさま。好ましくないさま。きらいだ。

・「だめ」 ④(形容動詞) 行っても効果のないこと。何の益もないこと。役に立たないこと。また、そのさま。むだ。⑤(形容動詞) 不可能なこと。また、そのさま。

・「むだ」 ①(形容動詞) 行っただけの効果がないこと。役にたたないこと。また、そのようなことやそのさま。無益。②無用の言辭。無益なおしゃべり。むだ口。

・「くそ」 ②感動詞 気にさわることをした人をののしるとき、思うようにならなくていららするとき、気持ちをふるいたせようとするときなどにいう語。くそう。③接頭語 卑しめののしる意を添える。また、程度のはなはだしいことをののしる意。④接尾語 他の語について、卑しめののしる意を表す語。

続いて、カタカナ表記されなかった語類に言及する。堀尾・則松(2006)によると、「キミ」のような人称代名詞は、会話や話しことば的な文章中に使用されていることが多く、「オレ」「カレ」「ボク」などのカタカナ表記も多く見られたとしており、とりわけ「キミ」はカタカナ表記率が87%とかなり慣用化が進んでいると指摘していた。しかし、今回の調査対象においては、人称代名詞でカタカナ表記されていたものは存在しなかった。「君」が全作品中、「俺」が7作品、「おれ」が3作品、「僕」が11作品に登場し、他にも「あなた」や「あんた」も見られたが、全て漢字もしくはひらがなで表記されていた。今回の調査対象内において人称代名詞はカタカナ表記されておらず、先行研究で調査対象となった若者雑誌とは異なる実態があることがわかった。

#### ・特定の意味を強調するカタカナ表記

次に、複数の意味を持つ語で、ある特定の意味を表す際にカタカナ表記が用いられている語に関して考察を行う。(※以下引用に対する傍線は筆者のものによる。また、語の意味の記述は特記しない限り『日本国語大辞典第二版』(2000-2002)小学館 から引用)

#### ◎【あれ】【アレ】

本論文の調査対象においては、カタカナ表記【アレ】が7例、ひらがな表記【あれ】が21例みられた。

(例1) レッドドラゴン  
アレをちょん切るぞ!  
“僕は醜いケダモノだ”

(例3) キューティブロンド  
現役だったわ  
アレの写真 見たい?

(例2) キューティブロンド  
男って皆同じ  
“アレの向く方向に若い女あり”

上記の3例において、【アレ】は(1)事物を指し示す。(2)人を指し示す。(3)場所を指し示す。(4)過去の出来事を指し示す。(5)はっきり言いたくないことやうまく言えないことなどを指す。(6)性的なことやものを、遠回しに指す。(7)昭和初期の流行語。性的魅力をいった俗語の意味のうち(6)の意味で出現し、男性の陰部を示していた。

(例4) ハリーポッターと賢者の石  
a) “お前さんの親は  
どこでアレを勉強したと?”  
b) 何を?

a) 金庫の入っておる  
アレのことだ  
b) アレですな

(例5) ハリーポッターと賢者の石

(例6) ハリーポッターと賢者の石  
a) アレに名前が?

b)もちろん 俺の犬だ

上記のようにカタカナ表記【アレ】の7例中、「ハリーポッターと賢者の石」における4例については(1)の意味で使用されていたため、字幕内での【アレ】は必ずしも(6)の意味であるとはいえなかった。【あれ】の用例では(1)~(4)の例で使用されており、(6)と同様の意味で用いられている例はなかった。「あれ」を(6)の隠語としての意味で用いる際には、【アレ】を用い、それ以外の場合にはほとんどの場合で【あれ】を用いると考えられる。

◎【アソコ】【あそこ】

また、「アレ/あれ」と同様に「アソコ/あそこ」も同じように使い分けられており、【アソコ】は「キューティブロンド」に2例、【あそこ】7作品に登場し合計14例見られた。

(例7) キューティブロンド  
a)"いとこもその病気を…  
アソコに発しんが"

(例8) キューティブロンド  
a)アソコが痛かった人！

「あそこ」には [(1)あの場所。また、漠然とした場所や方向をさし、「ここ」と対比して用い、「あちこち」の意にもなる。(2)両者が了解し合える特定の場所をぼかしていう。例の所。  
\*夢を植える(1975-76)〈清岡卓行〉バス停留所「そのかわり、あそこは、しだいに、痛いほど勃起してくる」(3)物事や事態の進展の度合いをいう。「あそこまでしなくてもよい」]  
という3つの意味があるが、【アソコ】は(2)の用例（男性の陰部の意）と同じ意味で用いられていた。【あそこ】は(1)、(2)の意味で登場していたが、男性の陰部を指す例はなく、カタカナ表記によって差別化されているといえる。

◎【ホシ】【星】

本稿の調査対象においては、【ホシ】が「レッドドラゴン」に11例、「ワイルドスピード」に5例で計16例登場した。対して【星】（星図、五芒星、火星などの熟語を除く）は「エリザベス・ゴールデンエイジ」に4例、「バトルシップ」に3例で計7例登場した。

(例9) レッドドラゴン  
a)何人もの犯人（ホシ）を挙げて？

(例11) レッドドラゴン  
a)必ずホシを挙げてくれよ  
b)努力します  
a)"すべて状況証拠だ

(例10) ワイルドスピード

決め手の証拠は何もない"

b) ホシは奴らだよ

(例 12) ワイルドスピード

a) 36 時間でホシを挙げろ

でなきゃ 転職先を探せ

b) ホシはトレットだよ

他にはいない

「ほし」には「①一般には、太陽・月・地球を除く天体。広義には、すべての天体。②星の光っている形に似たしるし。星の形をしたもの。(中略) ⑦犯罪の容疑者、犯人をいう、警察の隠語。[隠語輯覧(1915)]」の意味がある。(例 6) で「犯人 (ホシ)」とされているように【ホシ】は 16 例全てで⑦の意味で使用されており、この意味は辞書において「隠語」と明記されている。対して【星】が⑦の意味で用いられている例はなく、全て①の意味にて用いられていた。【ホシ】は片仮名表記することで意味を差別化していると考えられる。

#### ◎ 【ヤク】【薬】

本稿の調査対象において、【ヤク】は「ワイルドスピード」と「ダヴィンチコード」に 1 例ずつ、計 2 例登場した。対して【薬】(爆薬、薬物、などの熟語は除く) は 2 作品に 5 例登場した。

(例 13) ワイルドスピード

a) サンドにヤクを?

b) いい冗談

(例 14) ダヴィンチコード

a) 公園の男はヤクをやめたかも

君の手は僕の恐怖症を

治したかも

カタカナで書く「ヤク」は「くすり。現在では麻薬などをいう俗語。」とされており、俗語としての存在が明記されている。翻訳の際に「薬物」と表記することも可能であるがあえて【ヤク】とすることで俗語的であることを強調する効果がある。対して【薬】は麻薬などの「薬物」としての意味を持って登場するものはなかった。また、「キューティブロンド」には【クスリ】の表記が 1 例見られたが、意味としては「(比喩的に)、人間のまちがった、適切でない行為や性向などを改めるのに効果のある物事。精神的にためになること。」という意味で使われており、【薬】で表記される「病気や傷を治療したり、健康や生命の保持、増進に役立てるために、服用、注射、または塗布するもの。」という意味と区別されて使用されていた。先行研究<sup>7</sup>においても、このような【ヤク】と言うカタカナ表記語はひとつの語

<sup>7</sup> 奥垣内健 (2010) 「カタカナ表記語の意味についての一考察：身体性とイメージの観点から」『言語化学論集』16 巻 pp79-92



彙として確立されていると指摘がある。

#### 4.3 コンテキストによる表記の使い分け

ここではコンテキストによる語種選択について考察を行う。まず、全体のカタカナ率のばらつきから、どのような時代設定・どのようなジャンルの作品にカタカナ表記が多く用いられるのか考察する。また、作品中の登場人物によってカタカナ表記の多さに差異があるため、登場人物の人物像の観点からも考察を行う。次に、同一作品内あるいは作品の枠を越えて、同じ語でも表記の違いが現れている用例を個別に確認しどのような要因が語種選択に影響を与えているのか考察を行う。

##### 4.3.1 作品の時代設定とジャンル

表5 カタカナ率と時代設定

作品名	カタカナ率	作品時代設定	ジャンル
エリザベス・ゴールデンエイジ	0.97%	1580年代	歴史・ヒューマン
プライドと偏見	1.24%	18世紀末～ 19世紀初頭	恋愛
ラスト・サムライ	1.77%	1870年代	歴史・アクション
13デイズ	2.87%	1962年	歴史・政治
マーガレット・サッチャー	3.94%	1970年代	歴史・ヒューマン
レッド・ドラゴン	5.90%	1980年	サスペンス
ハリー・ポッター	8.38%	1990年代	ファンタジー
キューティブロンド	9.01%	現代(2001)	恋愛コメディ
ワイルド・スピード	12.09%	現代(2001)	アクション
ダ・ヴィンチ・コード	2.52%	現代(2006)	サスペンス
バトルシップ	7.72%	2012年	アクション
ミッション：インポッシブル	4.74%	現代(2015)	アクション
ザ・マミー	3.07%	現代(2017)	アクション
ジュラシックワールド	4.34%	現代(2018)	SF・アクション

※作品時代が作品発表年現在であるもの、またファンタジーを現代とした

表5では、作品の時代設定とカタカナ表記との関係を捉えるために、作品の時代設定を古

い順に並べカタカナ率との関係を示した。作品時代設定を「現代」としているものは、時代設定として年号が明記されておらず、( ) 内で作品発表年を示している。表1で述べた、非外来語カタカナ表記が少なかった上位3作品「エリザベス・ゴールデンエイジ」「プライドと偏見」「ラスト・サムライ」は、時代設定がそれぞれ1580年代の英国、18世紀末～19世紀初頭の英国、1879年代の日本となっており、時代設定がもっとも古い3作品がカタカナ率も最も低いという結果になった。作品内でも王族や貴族、武士など当時の上流階級が主に登場する作品となっているため、かしまり度が高く、敬語などが多いことも関係していると考えられる。また、時代設定が1962年の「13デイズ」、1970年代の「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」はカタカナ率が平均の4.92%よりも低いという結果が見られた。これら2作品は歴史・政治を題材にした作品であり、かしまった場面が多い作品である。現代においても、カタカナ率が平均以下の作品は見られるものの、作品の時代設定が古いほど非外来語カタカナ表記が少ないという傾向がある程度見られると考察できる。さらに、映画のジャンルとして【歴史】の要素が含まれているものは全てカタカナ率が平均よりも低いという結果になった。【歴史】作品内のセリフでは、報道や会議などかしまった場面や上司や高い身分の相手に対して敬語を使う場面が多いことが非外来語のカタカナ表記を少なくする要素であることも考えられる。

#### 4.3.2 登場人物による表記の使い分け

次に、登場人物による使い分けについて考察を行う。登場人物ごとに台詞数にもばらつきがみられるため、本論文では総台詞数が50以上の登場人物を対象として集計を行った。

##### ◎非外来語カタカナ表記が多い登場人物

表6 カタカナ出現率 上位10名

名前	性別	作品	総台詞数	カタカナ数	カタカナ率
ヴェイル	男性	ザ・マミー	62	9	14.51%
キャル	男性	バトルシップ	64	9	14.06%
ルーサー	男性	ミッション	60	8	13.33%
ロン	男性	ハリーポッター	170	22	12.94%
フランクリン	男性	ジュラシック	57	7	12.28%
エメット	男性	キューティ	67	8	11.94%
ミック	男性	バトルシップ	53	6	11.32%
レイクス	女性	バトルシップ	63	7	11.11%
ストーン	男性	バトルシップ	92	10	10.87%
ベンジー	男性	ミッション	185	20	10.81%

##### ①クリス・ヴェイル (30代男性、軍曹)

[マズい、ドカン、イカれる、ダメ(2)、ヤバい(2)、チクショー、デカイ]

- ② キャル (20~30 代男性、宇宙研究者)  
[ヘン、バカ(2)、ハッキリ、マズい、ムリ、ウヨウヨ、カッコつける、サヨナラ]
- ③ ルーサー (CIA メンバー、  
[ダチ(2)、ムリ(2)、メシ、マズい、ノロノロ、バッチリ]
- ④ ロン (10 代男性、魔法学校 1 年生)  
[ハウレンソウ、鼻クソ、カッコ悪い、ヒナ菊、ネズミ、デッカい、ヘン、ヤバい(3)、ムカつく、トロい、ウスノロ、ホウキ(2)、カッコいい、コワイ(2)、スゴい、ベタベタ、サビつく、ラク、コマ(2)]
- ⑤ フランクリン (20 代男性、恐竜保護団体所属、システムエンジニア)  
[バカ、ボンコツ、シューッと、ツイてない、ダメ、ヤバい、マズい]
- ⑥ エメット (20 代男性、弁護士補佐)  
[タマ、キビしい、ツバ、デブ、おバカ (2)、ウソ、バカ、]
- ⑦ ミック (40 代男性、元海軍)  
[ウザい、カン、イヤ、バア様、ケツ、チクショー]
- ⑧ レイクス (20 代女性、海軍兵)  
[オカマ、ムカつく、ヤバい(2)、チョー、ドカン、ナガタ]
- ⑨ ストーン・ホッパー (20~30 代男性、海軍中佐)  
[ローソク、ドジ、ヤバい、バカ(2)、ナシ(2)、ブツブツ、コネ(2)]
- ⑩ ベンジー (30 代男性、CIA メンバー)  
[ブツ、ダメ(2)、ゴメン、ウソ(5)、カンヅメ、ハメ、バカ、デタラメ、イジメ、ヤバい(4)、クソ野郎、マジ]

作品に偏りなくカタカナ表記出現数が多い登場人物が存在していることから、カタカナ表記が多い作品という要因ではなく、その人物の属性がある程度カタカナ表記の出現に関係していると考えられる。しかし、時代設定としては、表 2 にある通り、現代が作品舞台となっている作品から、カタカナ率上位 10 名の登場人物が出揃う結果となった。

以上の登場人物はほとんどが 20-30 歳の男性で若年層である。唯一の女性であるレイクス (バトルシップ) も、作中唯一の女性海軍兵であり、男性たちの中でも活躍し、男勝りな人物として描かれている。性格については全員に特に一致している点は見られなかった。しかし、共通項として、上記 5 名の発話場面のほとんどが、発話相手が家族・友人・同僚などであり、上司や見知らぬ人と対話する場面がなく、台詞の改まり度が低い点が挙げられる。これらを踏まえて、カタカナ表記が多い登場人物の大きな属性としては

- ・男性であること、または、男性的な性格を持つ人物であること
- ・20~30 代前後の比較的若い年齢層であること
- ・貴族・王族など高い身分ではなく庶民的な性質をもっていること。
- ・発話場面の改まり度が低いこと。(登場場面の発話相手が家族や友人が多いなど)

・相手を卑下したり愚痴をこぼしたりすることが多い人物。または、ネガティブで自分をいやしめて発言することが多い人物。

と考えられる。

◎非外来語カタカナ表記が少ない登場人物

表7 カタカナ表記が少ない登場人物

名前	性別	作品	総台詞数	カタカナ数	カタカナ率
ヘンリー	男性	ザ・マミー	122	0	0
ダーシー	男性	プライドと偏見	117	0	0
勝元	男性	ラスト・サムライ	116	0	0
エジプト女王	女性	ザ・マミー	79	0	0
マクゴナガル	女性	ハリーポッター	65	0	0
アリングローサ	男性	ダヴィンチ	51	0	0
ビングリー	男性	プライドと偏見	51	0	0
父親	男性	プライドと偏見	88	1	1.13
ベス	女性	エリザベス	76	1	1.32
提督	男性	バトルシップ	68	1	1.47
大村	男性	ラスト・サムライ	68	1	1.47
レーン	男性	ミッション	61	1	1.64

- ① ヘンリー (40~50代男性、博士兼法律家)
- ② ダーシー (20~30代男性、貴族)
- ③ 勝元盛次 (40~50代男性、武士)
- ④ エジプト女王 (20代女性、)
- ⑤ マクゴナガル (40代女性、魔法学校教員)
- ⑥ アリングローサ (40~50代男性、キリスト司教)
- ⑦ ビングリー (20~30代男性、貴族)
- ⑧ 父 (50~60代男性 穏やか) 「1人目でケガをすればよかった」
- ⑨ ベス (20代女性、女王付き人) 「ムリだわ」
- ⑩ 提督 (50代男性、厳しい) 「日本のナガタ艦長」
- ⑪ 大村 (40~50代男性、大臣、傲慢、非情) 「バカ言うな！総攻撃だ！」
- ⑫ レーン (30~40代男性、サイコパス、頭脳明晰) 「私のウソだったと？」

以上ではカタカナ表記が全く出現しない、もしくは1例のみある12名を整理した。男性9名女性3名という結果だが、詳しく見ていきたい。カタカナ率が低い男性は40~50代が中心で、カタカナ率が高い男性よりも年代が高くなっていることがわかる。人物像としても、

博士や司教、武士など、権威や威厳のある人物であることも要因と考えられる。さらに、20~30代男性であるダーシー、ビングリー（プライドと偏見）は貴族であり常に敬語で話している登場人物であり、表2にあるように作品自体も中世英国を舞台にしており、作品全体として敬語が多く改まり度の高いコンテキストをもつこともカタカナ表記がないことに起因していると考えられる。また、女性についても、カタカナ表記が少ないと思われる要因がいくつか挙げられる。マクゴナガル（ハリーポッターと賢者の石）は魔法学校の中でも厳しい教師として描かれており、生徒に対しても常に敬語を用いる人物であった。エジプト女王（ザ・マミー）は年齢こそ若い、5千年前に生きたままミイラにされた古代のエジプト女王であり、身分が高く、人と馴れ合わない孤高の女性である。また、ベス（エリザベス・ゴールデンエイジ）は、エリザベス女王に仕える若い女性であり、常に敬語を使用、身分が高くおしとやかで上品な女性として描かれる上、作品自体も中世英国が舞台となっていることが要因と考えられる。以上よりカタカナ表記の少ない人物像の特徴としては

- ・女性であること、または中年～老年の男性であること
- ・威厳・上品・高貴などの性質を持っていること
- ・貴族、王族などの位が高い血筋であること
- ・発話場面の改まり度が高いこと（敬語を使う場面など）

が挙げられる。

#### 4.3.3 同作品内での表記の使い分け

表8 同一作品に登場した異なる語種表記

カタカナ表記	漢字/ひらがな	登場作品名
アセる	焦る	ワイルドスピード
アソコ	あそこ	キューティブロンド
ウソ	嘘	キューティブロンド、ザ・マミー
カン	勘ぐる	キューティブロンド
キツイ	きつい	ワイルドスピード
キレル	切れる	ワイルドスピード
クビ	首	キューティブロンド、13 デイズ
コト	こと	レッドドラゴン
すげェ	すげえ	ワイルドスピード
スゴい	すごい	ハリーポッター
ステキ	すてき	マーガレット・サッチャー
ナマエ	名前	ラスト・サムライ
マズい	まずい	ワイルドスピード

ムリ	無理	13 デイズ、ダ・ヴィンチ・コード
ヤロー	野郎	レッドドラゴン

ある語がカタカナ表記される要因として、作品舞台・登場人物の人物像・語句のきれめや意味の差別化など様々な要因が考えられるが、それらは単一で影響を与えているのではなく、複数の要因が同時に影響してカタカナ表記が選択されている。そのことを前提においた上で、以下ではその表記に影響を与える要因の中でも特に大きな要因であると考えられる点で分類し考察を行う。

◎表 4 のうち意味による使い分けがされていると考えられる語

●アソコ/あそこ

「あそこ」については 4.2 で前述した通り、カタカナ表記では男性の陰部の意味で用いられ、ひらがな表記ではそれ以外の意味で用いられている。

●きつい/キツイ

(例 15) ワイルドスピード  
 ブライアン：手錠がきつい  
 外せよ ミューズ

(例 16) ワイルドスピード  
 警察官 A：上からのプレッシャーがキツイ  
 警察官 B：だからおとり捜査を

「きつい」という語には「①感覚に受ける刺激が強い。②いいかげんなことでは許さないさま。厳しい。③こらえたり、なしとげたりするのが大変である。たえがたくつらい。④人の気性がはげしく勝ち気である。また、そのように感じさせる。⑤物理的に隙間がない。⑥程度がはなはだしい。大変な程度である。ひどい。⑦ある行為やことば、状況などに対して、それが普通ではないことを感嘆の気持ちを込めていう。たいしたものだ。⑧まったくそのとおりである。」という複数の意味がある。【きつい】では物理的に苦しい状況であるため①を意味し、【キツイ】は圧迫された状況であるため②や⑥を意味している。この例においては【きつい】と【キツイ】は意味によって使い分けがされていると考えられる。

●首/クビ

(例 17) 13 デイズ  
 大統領：パワーズとレメイの首を  
 はねてやる"

妻：クビになったのかと  
 思ったわ  
 オドネル：なりたいよ

(例 18) 13 デイズ  
 オドネル：いいスピーチだった  
 ボブ：クビにはならないだろう

(例 20) キューティブロンド  
 エル：冷たい飲み物を出すとか  
首のマッサージを  
 ポーレット：やってもムダよ

(例 19) 13 デイズ

(例 21) キューティブロンド

ブルック：クビよ 弁護士を代えたの

キャラハン：代えた？

「くび」には、「①脊椎動物の頭と胴をつなぐ細くなっている部分。②物の①に似た形。また、該当する部分。③衣服の①を覆う部分。④①を含めてそこから上の部分。⑤（首を切られるの意から）(1)関係が断たれること。縁が切れること。(2)職を失うこと。失職。」意味がある。「首」は①の体の一部を意味するときに用いられており、「クビ」はすべてで⑤の特に(2)失職の意味で使用されていた。(例 17) では「首をはねる」という目的語＋述語で失職させるという意味を示しており、【クビ】1語で失職を意味を表すカタカナ表記とは多少違いが見られる。

●こと/コト

(例 22) レッド・ドラゴン

ボウマン：ボウマンだ

暗号を解いた コトだぞ

(例 23) レッド・ドラゴン

グレアム：犯人より頭がいいことを

証明する喜びが得られる

【こと】は他にも同作品に 18 例見られたが、全て「他の語句を受けて、これを名詞化し、その語の表す行為や事態や具体的内容などを体現化する形式名詞」という用いられ方であった。対して【コト】は主人公の家族が命を狙われていることを指しており、大変な事態だという意味を強調するために用いられていると考えられる。

●名前/ナマエ

(例 24) ラスト・サムライ

お連れの名前は

発音が難しい

(例 25) ラスト・サムライ

ナメエ…ナマエ

通じないのか

【名前】はアメリカ人が英語で、アメリカ人に向かって発話している台詞であり、【ナマエ】は日本人がアメリカ人に拙い英語で発話している場面である。この作品では作中7割程度は江戸時代末期の日本が舞台となっており、日本人の登場人物が複数登場する。しかし、制作は海外であるために日本人の登場人物もほとんどの台詞を英語で発話しており、それを字幕で表記している。【ナマエ】はそのような日本人が母語である日本語ではない英語でアメリカ人に話しかけるという拙さを表現していると考えられる。

●まずい/マズい

(例 26) ワイルドスピード

ヴィンス：ここのツナは まずい

ブライアン：うまいよ

(例 27) ワイルドスピード

ドミニクの仲間：マズいぜ

ジェシーが「まずい（不味い）」には ①味が悪い。食べるには耐えない味である。うまく

ない。②ぐあいが悪い。不都合である。③醜い。みっともない。興ざめである。④下手（へた）である。つたない。劣っている。⑤ずるい。狡猾である。という意味がある。

「まずい」は味が美味しくないという①の意味で用いられており、「マズい」は状況が良くないという②の意味で用いられている。発話者は2人とも同世代、同性、同じグループの仲間であり、発話者の特徴によって使い分けられているとは考えにくい。本例では意味の使い分けによって表記が使い分けられている。

### ◎意味や人物像による使い分けが見られない語

#### ●嘘/ウソ

(例 28) キューティブロンド

テレビ：君は僕の一部  
愛してるよ

エル：嘘つき！

(例 29) キューティブロンド

キャラハン：我々は信じるが陪審員は君の  
アリバイを求める

ブルック：それは言えないの 証言台でも  
ウソをつく

#### ●すげえ/すげエ

(例 30) ワイルドスピード

a) すげえマシーンだ

b) そのようだ

(例 31) ワイルドスピード

ジェシー：2JZ エンジン？ すげエ

#### ●スゴい/すごい

(例 32) ハリーポッターと賢者の石

ハリー：ロン 来て！

すごい物を見つけた！

(例 33) ハリーポッターと賢者の石

ロン：君ってコワイ 時々だけど

スゴすぎて コワイよ

他4例は、ロンによる発話だが、「すごい」とひらがな表記されていた。

#### ●ヤロー/野郎

(例 34) レッド・ドラゴン

ラウンズ：このヤロー！

おれの場所だぞ！

(例 35) レッド・ドラゴン

クロフォード：あの野郎 リーズ家の死体

解剖写真を入手しようと

FBI を名乗った

以上の例では特に語種による意味の違いや、コンテキスト・発話者の人物像による使い分けなどの分析を試みたがこれまで分析してきたような明確な意図が読み取れなかった。ある一つの目的や効果のためにカタカナ表記が選択されるのではなく、あらゆる要因が複雑に



絡み合って語種選択が行われることが前提であるが、カタカナ表記、常に意図や規範意識をもとに使われている訳ではなく、一部無意識的に語種選択の揺らぎが生じることがあると考えられる。

#### 4.3.4 作品外での表記の使い分け

以下では、作品の垣根を超えてカタカナ表記とそれ以外の表記が使い分けられていた語を整理する。

表9 複数の語種で登場した語

	語彙	台詞	発話者	作品名
1	でたらめ	<u>デタラメ</u> を記事に書いて状況を悪化させたら — こういうアホとは口をきかん 出入りも禁止だ	オドネル	13
2		<u>デタラメ</u> だ 共犯もいた	ベンジー	M
3		<u>でたらめ</u> のはずです	エリザベス	P
4	はっきり	薬で1時間ほど頭が <u>ハッキリ</u> するの	サッチャー	S
5		<u>ハッキリ</u> ものを言う誰かがね 皆意気地なしばかり!	サッチャー	S
6		<u>ハッキリ</u> 聞かせてください それは可能ですか?	サッチャー	S
7		ブライアン 聞くことに <u>ハッキリ</u> 答える	ドミニク	W
8		目標を <u>ハッキリ</u> 見据えて— それをつかみ取る	キャラハン	C
9		5個の <u>ハッキリ</u> した物体が 編隊を組んでる	ノグレディ博士	B
10		戻って <u>はっきり</u> 言うよ	ビングリー	P
11		誰も本音を言わない国で <u>はっきり</u> 物を言いすぎてね	サイモン	L
12	まし	ムショ暮らし2年 死ぬ方が <u>マシ</u> だ	ドミニク	W
13		死んだ方が <u>マシ</u> だ	ヴェイル	T
14		モリーとジョシュが 狙われるより <u>ずっとマシ</u> だ	グレアム	R
15		退屈でないだけ <u>マシ</u> ね	エリザベス	E

16		同じ方向に撃つだけ <u>マシ</u> だな	オールグレン	L
17		将校たちは <u>まし</u> な女性を求めるはずさ	父	P
18	むだ	私をおだてたって <u>ムダ</u> だよ	レクター	R
19		時間の <u>ムダ</u> だ	クロフォード	R
20		やめろ 逃げて <u>ムダ</u> だ!	ブライアン	W
21		祖父に尋ねてもいつも <u>ムダ</u>	ソフィー	D
22		じい様は“トランクのスペースが <u>ムダ</u> だ”と言ってた	レミー	D
23		やっても <u>ムダ</u> よ	ポーレット	C
24		努力が <u>ムダ</u> だったわ	エル	C
25		よりを戻しにきたんなら <u>ムダ</u> 足ってもんだ	デューイ	C
26		本当に <u>ムダ</u> なことだわ	サッチャー	S
27		ビースト 聞いても <u>ムダ</u> だよ 俺だって皆目分からん	アレックス	B
28		逃げて <u>ムダ</u> だ	ヴェイル	T
29		隠れて <u>ムダ</u> だ	フィルチ	H
30		言い逃れは <u>ムダ</u> だ	CIA 長官	M
31		<u>ムダ</u> です	ブラント	M
32		でも 何をしても無駄よ 希望はないわ	エリザベス	P
33	あせる	<u>アセ</u> り過ぎだ	ドミニク一味	W
34		<u>アセ</u> るな エコー ガツつくな	オーウェン	J
35		<u>焦</u> るでない 石は砕いてしもうた	ダンブルドア	H
36	くどく	美人だな <u>クド</u> きたい	ヴェイル	T
37		<u>くど</u> いてるの?	エル	C
38	さっぱり	な…何の話か <u>サッパリ</u> …	クイレル	H
39		トラック? <u>さっぱり</u> わからないわ	ミア	W
40	いじめ	捕まって モロッコの 刑務所で <u>イジメ</u> に遭 う	ベンジー	M
41		水が合わなかったら? 仲間 <u>に</u> いじめられた ら?	ハグリット	H
42	勘	<u>カン</u> が鋭いな	ミック	B
43		今日は君の <u>カン</u> が 見事にピタリ当たった	キャラハン	C
44		34 歳も年上の夫だ 陪審員はいろいろ <u>勘</u> ぐる	キャラハン	C

45	きれる	3/4 インチのレンチでね <u>キれる</u> 野郎なのさ	刑事	W
46		右の腕に深い裂傷 <u>動脈が切れてる</u>	ブライアン	W
47	おばさん	きっと こう思う "こんなオバサンが 我々のリーダー?"	サッチャー	S
48		はい <u>おばさん</u>	ハリー	H
49	子	あんな <u>コ</u> が法科とは	キャラハン	C
50		飼い犬が許しもなく <u>子</u> を孕んだ!	エリザベス	E
51		その <u>子</u> を使え!	ヴォルデモート	H
52	薬	あいつにはいい <u>クスリ</u> よ	ポーレット	C
53		厄介な <u>薬</u> の時間だ 失礼するよ	ロックウッド	J
54	罨	これは"悪魔の <u>ワナ</u> "よ もがかないで落ち着いて	ハーマイオニー	H
55		あるいは仕掛けられた <u>罨</u> です	大臣	13
56	いや	あんな恐ろしい死に方は <u>イヤ!</u>	エリザベス	E
57		ダーシーさんは嫌ね	姉	P
58	おまけ	つまりー この一件はハデな <u>オマケ</u> で ホシが本来 望むものじゃない	グレアム	R
59		魔法だよ カードの <u>おまけ</u> つき 僕は魔法使いのカードを 500 枚 集めた	ロン	H
60	かぎ	おい ちょっと待った! <u>カギ</u> をもう 1 度回してくれ	アレックス	B
61		スネイプが <u>鍵</u> を取れるなら 君にだって取れる	ロン	H
62	きびしい	私のような庶民は 収入の <u>キビしい</u> 週があればー 翌週は切り詰めるのです	サッチャー	S
63		そりゃ <u>キビしい</u> よ 初めての犯行だから	レクター	R
64		10 号線はパトロールが <u>キビしい</u> 残る道路は?	ブライアン	W
65		<u>キビしい</u>	?	13
66		彼女はタフだ <u>キビしい</u>	エメット	C
67		"つまり <u>厳しい</u> 貞潔の誓い 献金制度"	アリングローサ	D
68		そして常に自分に <u>厳しい</u>	オールグレン	L
69		<u>厳しい</u> わね	エリザベス	P
70		<u>厳しい</u> 意見ですね	エリザベス	P

71		同性に <u>厳しい</u> ですね	ダーシー	P
72	ごめん	別のドアか <u>ゴメン</u> 間違った	ベンジー	M
73		<u>ごめん</u>	ロン	H
		<u>ご免よ</u>	エル 同級生 (男)	C
74	こわい	君って <u>コワイ</u> 時々だけど スゴすぎて <u>コワイよ</u>	ロン	H
75		まあ <u>こわい!</u> 皆 ヘンね	サッチャー	S
76		さぞ <u>怖い</u> 人でしょうね	エリザベス	P
77		<u>怖い</u> の	シャーロット	P
78		人が何と噂するかが <u>怖い</u> だけよ	長女	P
79	さよなら	<u>サヨナラ</u> もう涙が涸れたわ	エル	C
80		この先は君らでやれ 僕は死にたくない <u>サヨナラ</u>	キャル	B
81		<u>サヨナラ</u> は聞けんのかと	ハグリット	H
82		そして" <u>さよなら</u> "をこめて "おやすみ"を	歌詞	S
83		<u>さようなら</u>	エリザベス	P
84		<u>ではまた明日 さようなら</u>	エリザベス叔父	P
85		<u>さようなら</u> リディア ウィッカムさん	キティ (妹)	P
86	じゃま	おジャマなら失礼するわ	リーバ	R
87		庭からは見えない ポーチの格子が <u>ジャマ</u> になる	グレアム	R
88		<u>ジャマ</u> な枝を切った	グレアム	R
89		お <u>ジャマ</u> じゃないだろうね?	ラルフ	R
90		この足が <u>ジャマ</u> だ	ハリー	H
91		スネイプは反対呪文で <u>ジャマ</u> した	ハリー	H
92		私の <u>邪魔</u> をし 私の部下を死なせる気か?	米軍	13
93		身分の低い者に <u>邪魔</u> させないわ	ダーシー叔母	P
94		まず秘密なら僕は <u>邪魔</u> だし	ダーシー	P
95	じょうしき	ヘアの手入れは 女の <u>ジョーシキ</u> よ	エル	C

96		母上や妹さんに <u>常識</u> が欠けている	ダーシー	P
97	のど	犯人は暗闇で 夫チャールズの <u>ノド</u> を裂きー 目覚めた妻ヴァレリーの腹を 死なぬ程度に 撃った	グレアム	R
98		<u>のど</u> が乾いた？ お水をあげるわね	エル	C
99		彼女の <u>のど</u> を裂きます	側近	E
100		今日あそこで 自分の <u>のど</u> を掻き切った	アドレイ	13
101	ぶた	<u>ブタ</u> 箱に2、3回	ドミニク	W
102		<u>豚</u> が逃げたの？	エリザベス	P
103		“ <u>豚</u> のように太りー”	レクター	R
104	よわい	ペネロペを海岸に連れてったら 太陽光線に <u>ヨワ</u> くて大暴れ 奴らも日光に <u>ヨワイ</u>	オーディ	B
105		判断ミスや間違いは犯しても 彼らは <u>弱</u> くない！ 弱い者とは 何も主張できない奴だ	オドネル	13
106	よわむし	それに私は <u>ヨワ</u> 虫じゃないからね	ジア	J
107		<u>弱</u> 虫！KFC！	レイクス	B
108	つよい	“見かけ通りに <u>ツヨ</u> いのか？”と	リーバ	R
109		心の奥に秘められた 何よりも <u>強</u> い望みのじゃ	ダンブルドア	H
110		水流が <u>強</u> いから2分	イルサ	M
111		死よりも <u>強</u> い生の力を身につけー	女王	T
112		心 <u>強</u> いわ	ソフィー	D
113		あんたが <u>強</u> い憎しみを持つ人間がー	オールグレン	L

(※13 デイズ=13、ミッションインポッシブル=M、プライドと偏見=P、マーガレット・サッチャー=S、ジュラシックワールド=J、キューティブロンド=C、エリザベス・ゴールドンエイジ=E、ハリーポッター=H、レッドドラゴン=R、ワイルドスピード=W、バトルシップ=B、ラストサムライ=L、ダヴィンチコード=D、ザ・マミー=T)

(※56.カタカナ表記【イヤ】の用例は 30 例あるために、1 例に割愛した)

#### ・登場作品の舞台や、登場人物の人物像による使い分け

まず、語種選択の際に作品や発話者の特徴などが主に影響を与えていると思われる用例を確認する。

1~3の「デタラメ/でたらめ」、12~17の「マシ/まし」、18~32の「ムダ/無駄」、56,57の「イヤ/嫌」、95,96の「ジョーシキ/常識」では、「プライドと偏見」でのみひらがなもしくは漢字表記されており、残るカタカナ表記はそれ以外の作品に登場している。前述の通り、作品舞台の時代設定が非外来語の表記選択に影響を与えていることが示唆されている。「プライドと偏見」は18世紀後半~19世紀初頭の英国を舞台とした作品で、全体で見ても調査対象ないでは、二番目にカタカナ率が低く(1.24%)、異なり語数で見れば最も非外来語のカタカナ表記が少ない(5語)作品である。さらに、「プライドと偏見」に加え、他の少数作品でのみカタカナ表記でない語彙もいくつか見られた。「ハッキリ/はっきり」「キビしい/厳しい」「サヨナラ/さよ(う)なら」「ジャマ/邪魔」が「プライドと偏見」とその他少数の作品でのみ漢字/ひらがな表記された語であった。その用例を確認する。

4~10「ハッキリ/はっきり」では6例がカタカナ表記で、2例が「プライドと偏見」「ラスト・サムライ」でひらがな表記であった。カタカナ表記されている4作品のうち最も時代設定が古いのは「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」であり、1970年代が舞台である。対してひらがな表記されていた作品は「プライドと偏見」と「ラスト・サムライ」で、後者は1870年代の日本が舞台となっている。両者ともカタカナ表記されていた作品とは少なくとも100年前後の時代の差があることがわかる。また、【ハッキリ】6例中の3例と、【はっきり】の2例の発話者は男性であり、意味や用法の差異は大きく見られなかった。

62~71「キビしい/厳しい」では5例がカタカナ表記、別の5例が「プライドと偏見」で3例、「ラスト・サムライ」で1例、「ダ・ヴィンチ・コード」で1例漢字表記されていた。カタカナ表記の用例は全て主語の性質を表している。(主語が省略されている場合もある。)漢字表記の用例は主語の性質を表すものが3例、名詞を修飾しているものが2例であり、用例として見られる大きな違いはなかった。漢字表記の「ラスト・サムライ」は前述の通り、1870年代が舞台で調査対象内では3番目に時代設定が古い。「プライドと偏見」「ラスト・サムライ」で登場した4例は作品の時代設定が語種選択に主な影響を与えたと考える。対して「ダ・ヴィンチ・コード」に登場した【厳しい】については、発話者の人物像が語種選択に影響したと考えられる。

79~85「サヨナラ/さよ(う)なら」では、3例がカタカナ表記、「プライドと偏見」で【さようなら】が3例、「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」で【さよなら】が2例登場した。カタカナ表記の3例は、79【サヨナラ】は本当の別れの場面ではなく、第三者を騙すためについた嘘、80【サヨナラ】は危険な状況に勇敢に立ち向かうことを自分だけ拒んでいう台詞、81【サヨナラ】は別れの場面で相手に対しておどけていう台詞であった。3例とも感動的、情緒的な別れの場面ではなく、改まり度は低い場面であると考えられる。「プライドの偏見」での【さようなら】について、83【さようなら】は侮辱してきた相手に対して言う言葉、84【さようなら】は初対面の相手に対して挨拶する場面、85【さようなら】は嫁ぐ姉妹に妹(姉)に向かって別れを伝える場面であった。「マーガレット・サッチャー 鉄の女」に登場した2例とも82【さよなら】と全く同じ台詞で、発話ではなく、BGMとして

流れている音楽の歌詞を表示したものであった。前述の通り、「プライドと偏見」の作品舞台が古いことが語種選択の主な要因になっていると考え、「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」の作品舞台は1970年代と比較的時代設定が古い作品になっており、加えてこの場面は主人公夫婦の過去の回想シーンであり20~30年ほど遡る(1940~1950年程度)と考えられる点が考慮される。しかし、筆者はこの例に関しては別の語種選択の主な要因が存在していると考え。この場面は主人公が恋人からプロポーズを受け、音楽に合わせて2人で優雅にダンスをするという場面であり、華やかかつ温かい場面である。カタカナ、ひらがなにはその<sup>8</sup>視覚的スタイルに由来するイメージがあることが先行研究でも指摘されており、よりやわらかいイメージをもつひらがな表記がこの場面にあふさわしいという意図が働いたことが要因となったと解釈できる。

86~94「ジャマ/邪魔」ではカタカナ表記6例中4例が「レッドドラゴン」、残る2例が「ハリーポッターと賢者の石」に登場し、漢字表記は「プライドと偏見」に2例、「13デイズ」に1例の計3例登場した。「レッドドラゴン」に登場した4例のうち2例は【おジャマ】という形で表記されており、自分以外の男女二人に対して、自分の存在が【おジャマ】かどうか問う台詞であった。(86,89) その他の【ジャマ】はどれも発話者以外の登場人物がいない場面で独り言である台詞、もしくは親しい友人と話す場面であり改まり度が低いと考えられる。対して「13デイズ」の【邪魔】(92)は、作品の時代設定が1962年と、カタカナ表記されている作品に比べて古い点に加えて、発話場面の改まり度も語種選択の際の大きな要因と考える。この発話場面は大統領部下と米軍幹部が対峙し、政治的な議論を熱く繰り広げ対立している場面であり、改まり度は高いといえる。改まり度が高いコンテキストでは漢字表記されやすいということは新聞などのメディアを調査対象とした研究からも考察されており、この事例の要因としても改まり度が関係していると考えられる。

74~78の「コワイ(イ)/こわい/怖い」では、カタカナ表記が「ハリーポッターと賢者の石」中に2例登場し【コワイ】【コワイ】という表記のゆれがあった。【こわい】は「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」、【怖い】は「プライドと偏見」に3例登場した。漢字表記が選択された要因としては、前述の通り「プライドと偏見」の時代設定が影響していると考察する。カタカナ表記、ひらがな表記が使い分けられた理由としては、複数の要因があると解釈できる。1つ目に「ハリーポッターと賢者の石」は現代英国が舞台で、「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」は1970年代と、ひらがな表記されている作品の方が時代設定が古い。2つ目に、発話者として【コワイ】【コワイ】のロンは十代男性、【こわい】のサッチャーは40~50代女性であり、前述した年齢層性別ともにロンの人物像の方がカタカナ表記されやすい人物になっている。このように複数の要因が考えられるが今回はどの要因が主な語種選択の要因となったのか断定することは難しい。

<sup>8</sup> 喜古(2007)によると、「視覚的スタイルに起因するイメージ」として、カタカナは(ア)卑俗、略式といったイメージ、(イ)西洋風、新しい、最先端といったイメージ、(ウ)平易というイメージがある。また、増地(2019a)によると、ひらがなは曲線的という形状からやわらかいというイメージを持つ。

33~35「アせる/焦る」、38,39「サッパリ/さっぱり」は発話者の人物像が大きな要因として考えられる。33【アせる】は10~20代男性、34【アせる】は30代男性、35【焦る】は60代男性であり、より若い人物のセリフにカタカナ表記が選択されている。また、35の発話者はダンブルドアという魔法学校の校長で、冷静沈着でおだやかな男性である。「~じゃ」「~かの?」「~ぞ」などという語尾にもその人物像が現れている。

#### ・品詞や意味による使い分け

以下では品詞や意味の違いによって語種選択が行われていると考えられる用例を確認する。

40,41「イジメ/いじめ」42~44「カン/勘」は品詞によって表記に違いが出ていると思われる。【イジメ】は名詞で、【いじめ】は「いじめられる」という動詞で登場し、【カン】は名詞で、【勘】は「勘ぐる」という動詞で登場している。用例が少なく、名詞用法=カタカナ、動詞=漢字・ひらがなと結論づけることは避けるが、調査対象内では、語種の違いに品詞も影響していると考えられる。

45,46「キれる/切れる」、47,48「オバサン/おばさん」、49~51「コ/子」、52,53「クスリ/薬」、101~103「ブタ/豚」、108~113「ツヨい/強い」では意味の違いによって表記の違いが現れたと解釈できる。

45,46はどちらも動詞「きれる」であるが、45は「(こらえていた気持ちが途切れて) 逆上する。多く、現代の若者が用いる。」の意味で用いられ、46は「傷ついたり、裂け目ができたりする。」の意味で用いられている。

「切れる」「キれる」の使い分けについては<sup>9</sup>先行研究でも指摘されており、【切れる】は「分離義、切れ味義、在庫切れ義、離別義、負傷義など15項目にわたる意味範囲をカバーする多義語」であるのに対し、【キれる】は「逆上義を中心に「怒る」意味合いを分担」しているとされている。このようにカタカナ【キれる】を用いることである特定の意味であることを表記していると考えられる。

47,48「オバサン/おばさん」では、47【オバサン】は他人から見て、年齢が若くない自分を称して言う台詞であり、48【おばさん】は自分の母親の妹つまり血縁関係として叔母にあたる人物に対して言う台詞である。ここから、実際の血縁関係にある「おばさん」か、他人を指していう「オバサン」かによって表記の違いが見られると考察する。同様に「バトルシップ」「レッドドラゴン」にて

(例36) バトルシップ

ミック：バア様でも登れる！

<sup>9</sup> 李 曉娜 (2010) 「「切れる」と「キれる」に関するマインドマップ調査について」にて、「切れる」と「キれる」のイメージや意味範囲について考察を行っている。



(例 37) レッドドラゴン

フランシス (幼少期) : おばあちゃん ごめんよ

という台詞があったがここでもカタカナ表記では一般的なおばあさんの年代の人を指しており、ひらがな表記は血縁上の祖母を指している。ただ、「じい様」「じい」「おじさん」などの語は登場しなかったため、あらゆる親族や転じてその年代・性別の他人を指す語に対してこのような表記の使い分けが適用されるのかは不明である。

49,50,51「コ/子」では【コ】(「個」の意味の「コ」は含まない)が1例、【子】が2例見られた。50,51は「子」の意味<sup>10</sup>のうち「両親の間に生まれた人。人間の男女の間にできた人。⇔親」と「年少のもの。幼稚な人。わらべ。」の意味で用いられている。対して49の「コ」は、主人公である女子大生エルのことを指しており、「娘。若い女性を、年長者がいう。主に近世以降の用法。」の意味で用いられている。【コ】は、調査対象内では「子供」とは言い難い若い女性を指すときに用いられると考えられる。

52,53「クスリ/薬」ではカタカナ表記が1例、漢字表記が1例登場した。53の【薬】は、「病気や傷を治療したり、健康や生命の保持、増進に役立てるために、服用、注射、または塗布するもの。(中略)医薬品。薬剤。薬種。薬品。薬物。」の医学的な意味で用いられているが、52の【クスリ】は「(比喩的に)、人間のまちがった、適切でない行為や性向などを改めるのに効果のある物事。精神的にためになること。」と派生的な意味で用いられている。

101~103の「ブタ/豚」ではカタカナ表記が1例「ブタ箱」という形で登場し、漢字表記が2例登場した。漢字表記の2例102,103では、単に動物の「豚」を指している語であるが、カタカナ表記では「ブタ箱」という形で、「犯罪の容疑者の身柄を拘束するための牢や留置所などをいう俗語。」の意味になっている。調査範囲内では、「豚」という動物に関しては、単に動物を表すときには漢字表記、俗語的で本来の意味とは違った意味を表すときにはカタカナ表記を用いていることが分かる。同様の用法が見られたのは「キューティブロンド」に登場した【カモ】という語で「①ガンカモ科の鳥のうち、比較的小型の水鳥の総称。②よいえもの。うまうまと利益をせしめることができるような相手。勝負ごと、かけごと、あるいは詐欺などで、食いものにするのにちょうどよい相手。「かもにする」「かもねぎをしよってくる」という意味のうち②の意味で用いられカタカナ表記されていた。以上の2例は動植物名をカタカナで表記するという、先行研究での指摘とは別に、その後の意味を区別したり強調したりする目的でカタカナ表記された例だといえる。その他の動物に関しては、単に

<sup>10</sup> 子：(1)両親の間に生まれた人。人間の男女の間にできた人。⇔親(2)獣、鳥、魚、昆虫など動物の雌雄の間に生まれたもの。卵生の鳥や魚などの場合には、卵そのもの、あるいは卵から孵化したものをいう。(3)実子のほか、養子、継子などの総称。(4)年少のもの。幼稚な人。わらべ。(5)人を親しんでいう語。男にも女にもいい、多く、地名などに続けて用いて、愛称の意を添える。(6)男から愛する女性をさしている語(7)娘。若い女性を、年長者がいう。主に近世以降の用法。以下略

動物を表す際に「カエル」「スズメ」などと表記する例と「犬」や「猫」、漢字で表記されているものがあり、動植物名に必ずしもカタカナ表記を用いるという共通点はみられなかった。

108~113「ツヨい/強い」ではカタカナ表記が1例、漢字表記が5例登場した。漢字表記されている109~113【強い】は「程度が著しい。はなはだしい。きわだっている。」や「はげしい。きびしい。するどい。」などの意味で用いられていると考えられる。対して108【ツヨい】では、

(例 38) レッド・ドラゴン

フランス： 僕の容姿を何と？  
リーバ： "すばらしい体をしている"って  
"顔なんか気にすることない"と  
そして—  
こう聞かれたわ  
"見かけ通りにツヨいのか"と  
ダラハイド： どう答えた？  
リーバ： "知らないわ"って

といった男女の会話中に【ツヨい】が登場しており、リーバという盲目の女性がフランスという男性に対して、周囲の女性が彼に興味を持っていることを伝えている。この会話中で【ツヨい】は性的な意味を含んでおり、【強い】で示される意味と全く同じ意味とは言えないと筆者は考える。このように、本来語が持つ意味の中である特定の意味を指すときや、俗語的・派生的な意味を表すときにカタカナ表記が意図的に用いられている。

## 6. まとめ

本論文の目的は、洋画字幕におけるカタカナ表記の実態を明らかにすること、特に洋画字幕における非外来語カタカナ表記の特徴を探求することであった。

「1 はじめに」では本論文における研究の背景、研究意義を述べた。現代日本語には複数の表記方法があり、社会的に大まかな基準が存在するが、実際にはその基準を外れた表記が公私かかわらず多く存在している。中でも多数確認されるのが、和語や漢語などの非外来語がカタカナ表記される例であり、これまでも複数の媒体を対象に研究されてきた。しかし、これまでに洋画字幕を調査媒体とした研究はなく、研究の余地があることを示した。

「2 先行研究」では、先行研究を概観した。「現代日本語の表記体系」、「現代日本語の非外来語カタカナ表記」、「洋画字幕における日本語」のそれぞれに関して見た。特に、「現代日本語の非外来語のカタカナ表記」については、新聞・雑誌・テレビCM、小説、Eメール、日用品のパッケージなどを調査媒体とした先行研究について整理した。また、語種選択の際には複数の要因が影響していることを示し、未だ調査媒体としては十分ではないことから本研究の意義を示した。さらに、「洋画字幕における日本語」については、洋画字幕という媒体の特徴として、字数や表示時間に制限があるために、直訳よりも日本人の文化に伝わる意識や省略などが多用されることを挙げた。また、字幕翻訳者からの視点として、字幕翻訳の手法を整理し、その中で字幕翻訳者は観客が一目見ただけで理解できる字幕、理解しやすい表記を意図して作成していることを指摘した。本論文では、先行研究では調査対象とされていない媒体を対象とし、これまで指摘されてきた先行研究での非外来語カタカナ表記の実態との共通点・相違点と、洋画字幕ならではの非外来語カタカナ表記の特徴を探ることを目的とした。

「3 調査方法」では、調査方法として「非外来語の定義」、「調査対象」、「集計方法」を示した。特に「調査対象」については、本論文では表記のゆれを少なくするために字幕翻訳者1名による翻訳がなされた作品を調査対象とし、翻訳を手掛けた作品数、社会からの評価（受賞歴など）、字幕翻訳界に与えた影響の大きさなどの観点から、戸田奈津子氏が字幕翻訳を担った作品を調査対象とした。そのなかでも、2000~2018年の比較的新しいと言える作品に絞り、ジャンルには偏りのないように作品を抽出し14作品の字幕を調査した。調査の際には筆者自身の目視によって全ての字幕表記を書き起こし、計16,611台詞を集計し806例の非外来語カタカナ表記を抽出した。

「4 考察」では、まず調査データ全体を概観し、洋画字幕における非外来語カタカナ表記の実態を大まかに整理した。「4.1 洋画字幕における非外来語カタカナ表記の実態」では、作品中の台詞数の平均は1186.5、カタカナ延べ語数が58例、カタカナ異なり語数が35例、カタカナ率が4.92%という結果になった。14作品の中でも非外来語カタカナ表記の数には大きなばらつきが見られ、多いものでは100例を超えるカタカナ表記が登場しているのに対して少ない作品では十数例にとどまっていた。そこから複数の観点に分け、各視点から考察を行った。「4.2 カタカナ表記されやすい語の特徴」では、カタカナ表記された語を品詞分

類し、最もカタカナ表記が多かったのは名詞、ついで副詞、動詞、形容詞という順になった。また、カタカナ表記で頻出の語については漢字で書くと画数が多く、文字の大きさや表示時間に制限がある字幕に適しているとは言い難い点に加えて、多くの語に共通して相手や状況を卑下したり、ののしったり、否定したりする意味を持つ点が特徴として挙げられた。この結果は先行研究でも指摘されていたように、カタカナがもつ「卑俗・略式といったイメージ」というイメージを表すために語種選択を行なっていると考えられる。さらに、複数の意味を持つ語で、ある特定の意味を表す際にカタカナ表記される語については、【アレ】【アソコ】【ホシ】【ヤク】などで特定の意味、特に隠語としての意味を表す際にカタカナ表記が用いられており、ひらがな・漢字で表記する際の意味と区別されていた。これらの使い分けでは意味を強調する目的で語種選択されており、隠語や俗語としての意味であることが一目みて理解できるように意図的にカタカナ表記されたものである。このようなカタカナ表記の使用例は先行研究でも指摘されており、他媒体とも共通してみられる使い分けであった。「4.3 コンテキストによる表記の使い分け」では、作品の時代設定・ジャンル、登場人物（発話者）の人物像、同作品内・作品外での表記の使い分けについて考察を行った。まず作品の時代設定においては、調査対象内で最も時代設定が古い3作品が、調査対象内でカタカナ率が最も低い3作品となっていた。他にも時代設定が比較的古い作品はカタカナ率が平均より低いなどから、時代設定が非外来語カタカナ表記の数に影響を与えることを示唆していた。さらに映画のジャンルの観点では、【歴史】のジャンルを含む作品はすべてカタカナ率が平均よりも低く、ジャンルの特性としてかしこまった場面や敬語を使う場面が多いことも非外来語カタカナ表記が少ない要因として挙げられることを指摘した。次に登場人物（発話者）の人物像の観点では、カタカナ率が高い上位10名とカタカナ表記が最も少ない12名を取り出しその人物像から考察を行った。カタカナ表記の多寡には人物像の特徴が反映されている傾向が見られ、カタカナ表記の多い人物像は、「男性的である」「若年層であること」「庶民的」「相手を卑下したり愚痴を言ったりする人物」「ネガティブで自分自身をいやしめて発言する人物」などの共通点が挙げられた。対して、カタカナ表記の少ない人物は「女性、または中年～老年の男性」「威厳・上品・高貴などの性質」「貴族、王族などの位が高い血筋」「発話場面の改まり度が高い（敬語を使う場面など）」などの特徴が挙げられた。これらのカタカナ表記の多寡に対する特徴は二項対立となっており、登場人物の人物像が語種選択に影響を与えていると考えられる。

次に同作品内・作品外での表記の使い分けについては、個別の用例を分析しながら考察を行った。それぞれの用例で、ここまでに考察してきた特定の意味の差別化・強調、作品の時代設定やジャンル、登場人物の人物像、などの目的のもとカタカナ表記が使い分けられていると考えることができた。しかし、表記の使い分けに特徴や目的が見られない語もあった。これらの表記の揺れに関しては、その要因として先行研究で提示されていたように翻訳者に対して受注元から表記に対する何らかの翻訳指示が出されていた、個人の表記の揺れの問題などが考えられる。

以上のことより明らかになったことを整理する。まず、洋画字幕における非外来語カタカナ表記の実態として、作品ごとにカタカナ表記の多寡にばらつきがあり、そのばらつきは映画作品の時代設定やジャンルによるものであると考察した。カタカナ表記が少ない作品の特徴として時代設定が古く、ジャンルが【歴史】などであることが挙げられ、対してカタカナ表記が少ない作品の特徴は時代設定が現代に近く、ジャンルが【アクション】や【コメディ】【ファンタジー】であった。この結果はテレビ番組のテロップでの非外来語カタカナ表記との共通点が見られ、増地(2018a)では、報道番組では書き言葉に近く非外来語のカタカナ表記は現れにくい、逆にバラエティ番組は話し言葉に近くカタカナ表記が多用されるという結果になっていた。このように、作品・番組の改まり度や内容の差がカタカナ表記の多寡に影響を与える。また、コンテキストが語種選択に影響を及ぼすものとして主に、発話者の性質の表現・意味の差別化や強調の目的のもとカタカナ表記が用いられていると考察することができた。先行研究では吉田(2007)の小説を媒体とした研究の中で、「会話文中に見られる片仮名表記」に言及していたが、くだけた口調の中で俗語的な雰囲気を出すために使われるという結論にとどまっていた。本論文では多くの登場人物を扱い比較したことで、カタカナ表記の多い人物像・少ない人物像の大まかな特徴を洗い出すことができた。意味の差別化・強調では、ある特定の意味特に俗語や隠語としての意味をその他の意味と差別化する際に用いられることがわかった。これは他媒体を調査対象とした先行研究内でも指摘されており、洋画字幕内にも応用されていることが確認できた。以上より非外来語カタカナ表記の現れ方は二項対立で捉えることができる。

〈カタカナ表記多用〉		〈漢字・ひらがな表記〉
アクション・コメディ	← ジャンル →	歴史
新しい(現代)	← 時代設定 →	古い(中世～)
男性的	← 発話者の性別 →	女性的
若年	← 発話者の年齢 →	老年
俗語的・隠語的	← 意味 →	一般的

図5 非外来語カタカナ表記の二項対立

本論文では洋画字幕における非外来語のカタカナ表記について作品の字幕からカタカナ表記を抽出し分析することで考察を行った。分析に際して、表記の主な目的や意図によって分類したが、あくまでも語種選択には様々な要因が関係しており、その一端を示したに過ぎないということに留意したいが、映画字幕においても、先行研究と同様にカタカナのイメージを利用したり、隠語的・俗語的な意味を強調するために使用されていたり、コンテキストや発話者によってカタカナ表記が効果的に使用されたりすることがわかった。本論文では翻訳者を戸田奈津子氏一名に絞って研究を行ったため、あくまでも調査対象内での考察と

いう範囲にとどまっているが、洋画字幕全体の特徴のうちの一端を示すことができたといえよう。今回は調査対象とした作品にジャンルや年代のばらつきが見られたこと、作品数の不十分さが今後の課題である。現在も変化を続けている現代日本語においてカタカナの用いられ方がどのように変化していくのか、今後も注目し続けたい。



参考文献

- ・五十嵐優子(2012)「日本の社会とカタカナ表記」『Mukogawa Literary Review』49巻 pp15-25
- ・白木智子(2008)「雑誌の片仮名表記—基準から外れる表記について—」『国学院大学大学院紀要文学研究科』40巻 pp265-280
- ・奥垣内健(2010)「カタカナ表記語の意味についての一考察:新体制とイメージの観点から」『言語科学論集』16号 pp79-92
- ・喜古容子(2007)「片仮名の表現効果:戦後の小説を資料に」『早稲田日本語研究』16号 pp61-72
- ・魏聖銓(1999)「現代日本語のカタカナ使用の一側面—中吊り広告ポスターに用いるカタカナ語を中心に」『外国語学会誌 大東文化大学外国語学会編』28号 pp103-121
- ・金城ふみ子(1998)「「大学広告」におけるカタカナ表記語及びアルファベット表記語の使用状況:調査報告」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』10号 pp97-118
- ・小林敏彦(2000)「洋画の字幕翻訳の特徴とその類型」『小樽商科大学人文研究』100号 pp27-82
- ・佐々木りか(2011)「映画 Enchanted (『魔法にかけられて』)における字幕翻訳の分析と考察」『岩手大学英語教育論集』13号 pp50-62
- ・篠原有子(2018)『映画字幕の翻訳学—日本映画と英語字幕』晃洋書房
- ・篠原有子(2012)「映画字幕は視聴者の期待にどう応えるか」『通訳翻訳研究』12号 pp209-228
- ・土屋信一(1977)「現代新聞の片仮名表記」『電子計算機による国語研究』8号 pp140-159
- ・梁瀬みき(2013)「字幕と吹き替えの比較」『日本文学』109号 pp127-143
- ・堀尾香代子・則松智子(2006)「若者雑誌におけるカタカナ表記とその慣用化をめぐって」『北九州市立大学文学部紀要』72号 pp19-32
- ・増地ひとみ(2021)「外来語か否かの判定調査結果報告:29のカタカナ表記語を対象に」『愛知淑徳大学論集.創造表現学部篇』11号 pp51-66
- ・増地ひとみ(2021)「学術雑誌におけるカタカナの役割と使用実態(その2):「慣用カタカナ表記」発掘調査結果報告」『愛知淑徳大学論集文学部篇』46号 pp155-166
- ・増地ひとみ(2019a)「オノマトペを表現する文字種の選択要因:「キンキン」と「ふわふわ」をめぐって」『愛知淑徳大学論集創造表現学部篇』9号 pp33-47
- ・増地ひとみ(2019b)「「非外来語のカタカナ表記」研究の現状と今後の展望」『愛知淑徳大学論集文学部篇』44号 pp143-159
- ・増地ひとみ(2018a)「現代日本語におけるカタカナ使用の実態のその背景」『早稲田大学博士(文学)』5602号 pp1-265
- ・増地ひとみ(2018b)「学術雑誌におけるカタカナの役割と使用実態—カタカナ表記で出現する語とコンテクストの関連—」『早稲田大学国文学会 国文学研究』184号 pp105-91

- ・増地ひとみ(2016)「日用品のパッケージにおける非標準的なカタカナ表記-表記の「流通」を中心に-」『早稲田日本語研究』25号 pp1-14
- ・増地ひとみ(2015a)「テレビ番組の文字情報における非標準的なカタカナ表記-「文字列への埋没回避」の観点から-」『国文学研究』176号 pp82-67 早稲田大学国文学会
- ・増地ひとみ(2015b)「テレビCMの文字情報における文字種の選択-CMジャンルと語用論的要素に注目して-」『早稲田大学日本語研究』24号 pp13-24
- ・松田梨江(2007)「外来語の変遷：新聞記事における外来語とカタカナ表記」『東京女子大学言語文化研究』16号 pp115-132
- ・村中淑子・黎婉珊(2013)「中上級日本語教科書における非外来語カタカナ表記の実態」『国際文化論集』48号 pp113-134
- ・吉田由佳(2007)「擬音語・擬態語から見た日本語非外来語片仮名表記の考察」『東京外国語大学記述言語学論集』3号 pp235-242
- ・李 曉娜(2010)「「切れる」と「キレる」に関するマインドマップ調査について」『山口国文』33号 pp84-69
- ・日本国語大辞典第二版編集委員会(2000-2002)小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典第二版』小学館
- ・常用漢字表(2010)文化庁  
([https://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/kanji/](https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/kanji/))

#### 参考 URL

- ・一般社団法人日本音声製作者連盟 HP  
(<https://onseiren.com/koeoto/volume-02>)  
(最終閲覧日 2022年10月17日)
- ・毎日新聞特集ワイド  
(<https://mainichi.jp/articles/20220902/dde/012/200/011000c>)  
(最終閲覧日 2022年10月17日)
- ・日本私立大学協会 HP  
(<https://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/rensai/daigakujin/2495-5-2.html>) (最終閲覧日 2022年10月17日)
- ・世界歴代映画興行収入 (<https://www.tsp21.com/movie/worldmoviealltime.html>)  
(最終閲覧日 2022/10/24)